

科目一覧

[発行日：2021/4/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【X8001】 キャリア調査研究法基礎 [熊谷 智博]	春学期授業/Spring	1
【X8002】 量的調査法 [齋藤 嘉孝]	秋学期後半/Fall(2nd half)	2
【X8003】 質的調査法 [佐藤 恵]	秋学期前半/Fall(1st half)	2
【X8004】 生涯発達心理学 [岡田 昌毅]	春学期集中/Intensive(Spring)	3
【X8005】 教育心理学 [田澤 実]	秋学期授業/Fall	4
【X8006】 産業・組織心理学 [坂爪 洋美]	春学期授業/Spring	5
【X8007】 キャリアカウンセリング論 [廣川 進]	春学期授業/Spring	6
【X8008】 コミュニティとキャリア [田中 研之輔、安田 節之]	秋学期授業/Fall	7
【X8009】 キャリアガイダンス論 [児美川 孝一郎]	秋学期授業/Fall	9
【X8010】 教育経営論 [高野 良一]	春学期授業/Spring	10
【X8011】 キャリア教育論 [上西 充子]	春学期授業/Spring	11
【X8012】 教育社会学 [筒井 美紀]	春学期授業/Spring	12
【X8013】 生涯学習論 [久井 英輔]	秋学期授業/Fall	13
【X8014】 キャリア開発論 [武石 恵美子]	春学期授業/Spring	14
【X8015】 人的資源管理論 [藤本 真]	秋学期授業/Fall	15
【X8016】 経営組織マネジメント論 [木村 琢磨]	春学期授業/Spring	17
【X8017】 人事組織経済学 [梅崎 修]	秋学期授業/Fall	18
【X8018】 職業キャリア政策論 [松浦 民恵]	秋学期授業/Fall	19
【X8021】 キャリアデザイン学演習 I [上西 充子]	春学期授業/Spring	21
【X8022】 キャリアデザイン学演習 I [梅崎 修]	春学期授業/Spring	22
【X8023】 キャリアデザイン学演習 I [木村 琢磨]	春学期授業/Spring	23
【X8024】 キャリアデザイン学演習 I [児美川 孝一郎]	春学期授業/Spring	24
【X8025】 キャリアデザイン学演習 I [齋藤 嘉孝]	春学期授業/Spring	25
【X8026】 キャリアデザイン学演習 I [坂爪 洋美]	春学期授業/Spring	26
【X8027】 キャリアデザイン学演習 I [久井 英輔]	春学期授業/Spring	27
【X8028】 キャリアデザイン学演習 I [佐藤 厚]	春学期授業/Spring	28
【X8029】 キャリアデザイン学演習 I [佐藤 恵]	春学期授業/Spring	29
【X8030】 キャリアデザイン学演習 I [高野 良一]	春学期授業/Spring	30
【X8031】 キャリアデザイン学演習 I [武石 恵美子]	春学期授業/Spring	31
【X8032】 キャリアデザイン学演習 I [田澤 実]	春学期授業/Spring	32
【X8033】 キャリアデザイン学演習 I [田中 研之輔]	春学期授業/Spring	33
【X8034】 キャリアデザイン学演習 I [筒井 美紀]	春学期授業/Spring	34
【X8035】 キャリアデザイン学演習 I [松浦 民恵]	春学期授業/Spring	35
【X8036】 キャリアデザイン学演習 I [廣川 進]	春学期授業/Spring	36
【X8037】 キャリアデザイン学演習 I [安田 節之]	春学期授業/Spring	37
【X8038】 キャリアデザイン学演習 I [熊谷 智博]	春学期授業/Spring	38
【X8041】 キャリアデザイン学演習 II [上西 充子]	秋学期授業/Fall	39
【X8042】 キャリアデザイン学演習 II [梅崎 修]	秋学期授業/Fall	40
【X8043】 キャリアデザイン学演習 II [木村 琢磨]	秋学期授業/Fall	41
【X8044】 キャリアデザイン学演習 II [児美川 孝一郎]	秋学期授業/Fall	42
【X8045】 キャリアデザイン学演習 II [齋藤 嘉孝]	秋学期授業/Fall	43
【X8046】 キャリアデザイン学演習 II [坂爪 洋美]	秋学期授業/Fall	44
【X8047】 キャリアデザイン学演習 II [久井 英輔]	秋学期授業/Fall	45
【X8048】 キャリアデザイン学演習 II [佐藤 厚]	秋学期授業/Fall	46
【X8049】 キャリアデザイン学演習 II [佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	47
【X8050】 キャリアデザイン学演習 II [高野 良一]	秋学期授業/Fall	48
【X8051】 キャリアデザイン学演習 II [武石 恵美子]	秋学期授業/Fall	49
【X8052】 キャリアデザイン学演習 II [田澤 実]	秋学期授業/Fall	50
【X8053】 キャリアデザイン学演習 II [田中 研之輔]	秋学期授業/Fall	51
【X8054】 キャリアデザイン学演習 II [筒井 美紀]	秋学期授業/Fall	52
【X8055】 キャリアデザイン学演習 II [松浦 民恵]	秋学期授業/Fall	53
【X8056】 キャリアデザイン学演習 II [廣川 進]	秋学期授業/Fall	54
【X8057】 キャリアデザイン学演習 II [安田 節之]	秋学期授業/Fall	55

【X8058】 キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔熊谷 智博〕 秋学期授業/Fall	56
【X8059】 キャリアデザイン学演習Ⅰ	〔代表シラバス〕 〔木村 琢磨、梅崎 修〕 春学期授業/Spring	57
【X8060】 キャリアデザイン学演習Ⅱ	〔代表シラバス〕 〔木村 琢磨、梅崎 修〕 秋学期授業/Fall	58

SOC500M1 - 1101

キャリア調査研究法基礎

熊谷 智博

備考（履修条件等）：隔週授業

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

調査研究の方法に関する知識を身につけることによって、社会現象を単なる主観的に判断するのではなく、客観的なデータから問題を理解するスキルを修得することを本講義の目的としています。具体的に心理学の研究をベースとして、量的・質的研究とはなにか、科学的研究法がなぜ必要かについての理解を目指します。

【到達目標】

授業においては、量的／質的な調査・分析の諸方法について基本的学習を行い、それらを理解し説明することができるようになることをめざします。本講義での学びを通して、各自が関心を持つ研究対象について、具体的に研究としての形にするにはどうしたらよいか、量的／質的調査の方法を適用し、量的／質的な分析を行なうという点から行えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に2コマ連続で、隔週開講となります。基本的にZoomを利用したリアルタイム型オンライン授業とする予定です。講義では簡単な統計分析を行う事もありますので、Microsoft社のExcelを利用可能な環境を用意して下さい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概略・方法
第2回	授業の実施方法について	授業運営方法についての説明と練習
第3回	科学と実証	「科学的」とは何かについて解説
第4回	実験と観察	科学的研究法の代表である実験と観察について解説
第5回	実証の手続き	科学的研究の実施方法について解説
第6回	変数とは：独立変数と剰余変数	独立変数の扱い方を解説
第7回	変数とは：従属変数	従属変数の測定法について解説
第8回	実験法と問題点	様々な実験法の紹介と問題としての限界を解説
第9回	調査法	調査法の特徴について解説
第10回	観察法	観察法の特徴について解説
第11回	面接法	構造化面接、非構造化面接、半構造化面接
第12回	研究の実施と解釈	研究実施の際の注意点、結果の解釈
第13回	研究報告	研究結果の報告、特に論文執筆と学会発表の仕方について。
第14回	まとめ	授業内容についての振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象やテーマに関するアイディアを練り、それに関する資料の収集を少しずつ進めていくください。また調査法は授業で得た知識を積み上げていくことが必要となりますので、復習をしっかり行って次回の授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

板書を減らし、レジュメを軸に講義を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

タブレットやスマートフォンでも構いませんがExcelを利用出来るようにしておいて下さい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会心理学、グループダイナミックス、紛争解決。

<研究テーマ>

集団間紛争の心理過程について研究しています。最近は集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。

<主要研究業績>

熊谷智博(2016). 第15章：集団間紛争とその解決および和解 大渕憲一監修

紛争・暴力・公正の心理学 北大路書房 pp.192-203.

熊谷智博(2014). 第9章：集団の中の個人、第10章：集団間関係. 脇本竜太郎編著 熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著 基礎からまなぶ社会心理学 サイエンス社 pp.153-192.

熊谷智博(2013). 集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討 社会心理学研究, 29, 2. 86-93.

熊谷智博・大渕憲一 監訳(2012) 紛争と平和構築の社会心理学:集団間の葛藤とその解決 北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

[Outline and objectives]

Students will learn introduction of social science, either form qualitative and quantitative approach.

SOC500M1 - 1102

量的調査法

齋藤 嘉孝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的調査によって得られたローデータを分析するのに必要な知識や技能を学ぶ。

【到達目標】

量的調査によって得られたローデータを分析するには専門的な知識や技能が存在するが（例えば、クロス表分析、分散分析、回帰分析、等）、それらを使って量的分析ができるようになること。また、実際の二次分析データを用いることによって、統計ソフトの使い方を体得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

量的調査は、様々な研究を進めるうえで非常に有効な方法である。この授業では、春学期科目「キャリア調査研究法」で学んだことを発展させ、実際に統計ソフト（エクセルを予定）を履修者が操作すること等により、量的調査分析の手法を修得していく。また、修士論文の作成にむけて、履修者各自の調査デザインをもとに実践的分析を進めていく。なお、状況によりオンライン形式での実施もあリえるが、その際は追ってアナウンスするので、初回から学習支援システムを確認すること（リモートの場合はリアルタイム型ではなくオンデマンド型とする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期後半

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	量的調査の概要
2	データ入力①	統計ソフトへの入力方法
3	データ入力②	データクリーニング等
4	記述統計	平均・標準偏差等
5	統計分析①	クロス表分析
6	統計分析②	クロス表分析
7	統計分析③	クロス表分析
8	統計分析④	分散分析
9	統計分析⑤	分散分析
10	統計分析⑥	分散分析
11	統計分析⑦	重回帰分析等
12	統計分析⑧	重回帰分析等
13	統計分析⑨	統計的有意
14	分析結果の報告	分析結果の報告およびディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 春学期科目「キャリア調査研究法基礎」を履修しておくこと。
- 毎回指示される課題を遂行すること（文献講読、データ分析、報告書執筆、等）。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ワードマップ社会福祉調査』（斎藤嘉孝、2010 年、新曜社）

【参考書】

授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回提出物 50 %、期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

常に実践的な内容を心がけている。理論のことだけでなく、修士論文に実際に使える知識・技能を会得してほしいと考えている。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会学、社会調査

<研究テーマ>

私的生活領域やそれを取り巻く社会環境を人生スパンで対象とする実証的研究や、それに関連する諸政策・制度。

<主要研究業績>

『ワードマップ社会福祉調査』（2010 年、新曜社）、『親になれない親たち』（2009 年、新曜社）、「An Empirical Study of the Frequency of Intergenerational Contacts of Family Members in Japan」、Journal of Intergenerational Relationships 7(1) (2009 年、共著)

【Outline and objectives】

Learn knowledge and skills necessary for analyses of raw data that were collected by quantitative methods.

SOC500M1 - 1103

質的調査法

佐藤 恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。

社会調査によって社会的なアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにすることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、質的調査・質的分析の諸方法について学びます。

【到達目標】

授業においては、まず、質的調査・質的分析の諸方法について基本的学習を行い、それらを理解し説明することができるようになります。

その上で、調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。本講義での学びを通じ、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、質的な分析を行うことができるようになりますことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンライン授業となる場合もあります。

オンライン授業となる場合、初回授業は Zoom によるリアルタイム方式とし、以後のリアルタイム方式／オンライン方式の割合については、学習支援システムにて提示します。その場合、初回授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業ですが、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等も積極的に取り入れていきます。

1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。

各テーマを深く掘り下げるを通じて、質的調査法についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期前半

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ・概要・方法
第 2 回	社会調査と社会認識、調查倫理（1）	社会科学における予言と観察の問題
第 3 回	社会調査と社会認識、調查倫理（2）	社会調査における倫理問題
第 4 回	インタビュー法（1）	構造化面接
第 5 回	インタビュー法（2）	非構造化面接、半構造化面接
第 6 回	インタビュー法（3）	インタビュー法実習
第 7 回	観察法（1）	統制的観察、非統制的観察（非参与観察）
第 8 回	観察法（2）	非統制的観察（参与観察）
第 9 回	ライフストーリー法	ライフストーリー・インタビュー
第 10 回	調査データの読解	調査データ読解上の注意
第 11 回	質的データの分析法（1）	KJ 法
第 12 回	質的データの分析法（2）	グラウンド・セオリー・アプローチ
第 13 回	質的データの分析法（3）	修正版グラウンド・セオリー・アプローチ、漸次構造化法
第 14 回	まとめ・総括	質的調査のメリット

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査対象やテーマに関するアイディアを練り、それに関する資料の収集を少しづつ進めさせてください。

もう一つ、準備学習として重要なことは、先に進むことばかりを考えるのではなく、1 回 1 回の授業から質的調査に関する視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題（50%）、平常点（50%）。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会学（地域社会学、福祉社会学、犯罪社会学）、社会調査（質的）。

<最近の研究テーマ>

支援の社会学（犯罪被害者支援、障害者支援、震災復興支援、ボランティア／NPO、ピア・サポート／セルフヘルプ・グループ）。

<主要研究業績>

- ①「生きづらさを生き埋めにする社会——犯罪被害者遺族・自死遺族を事例として」（共著、「社会学評論」66(4)、2016年）
- ②『大震災の生存学』（共著、青弓社、2015年）
- ③『ピア・サポートの社会学—ALS、認知症介護、依存症、自死遺児、犯罪被害者の物語を聞く』（共著、晃洋書房、2013年）
- ④『自立と支援の社会学—阪神大震災とボランティア』（単著、東信堂、2010年）
- ⑤『〈支援〉の社会学—現場に向き合う思考』（共編著、青弓社、2008年）

【Outline and objectives】

Social Research refers to the process and methods of recognizing and understanding a social phenomenon by collecting data from the actual world and analyzing them.

Understanding of the social reality through social researches helps us see hitherto unnoticed matters and expand our knowledge.

Among various social research methods, this class focuses on "qualitative research," which is independent of statistical calculations and figures, to cover various qualitative survey and analysis methods.

PSY500M1 - 1201

生涯発達心理学**岡田 昌毅****実務教員：****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

キャリア・カウンセラーやクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。

【到達目標】

キャリア関連の諸理論・アプローチを実践場面に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリア心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用について個人またはグループ毎に整理し、各自2つの課題に関する発表を行っていただぐ。発表会においてディスカッション、および課題に対する講評や解説を行う。

本科目は対面授業を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、Zoomを用いたオンライン授業となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期集中

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエーティング	授業の進め方に関して説明する。
第 2 回	キャリア関連理論・アプローチ概説 I	本授業で取り扱うキャリア関連理論・アプローチについて概説する。（前半）
第 3 回	キャリア関連理論・アプローチ概説 II	本授業で取り扱うキャリア関連理論・アプローチについて概説する。（後半）
第 4 回	キャリアインタビューエー I	キャリアインタビューエーの準備と実施。（前半）
第 5 回	キャリアインタビューエー II	キャリアインタビューエーの準備と実施。（後半）
第 6 回	キャリア概要把握 I	インタビューエー結果に基づきライフラインを作成する。
第 7 回	追加インタビューエー I	追加インタビューエーを実施する。（前半）
第 8 回	追加インタビューエー II	追加インタビューエーを実施する。（後半）
第 9 回	キャリア概要把握 II	ライフラインを完成させ、キャリア概要把握を完了する。
第 10 回	職業選択と適性 I	お好みに関する課題発表とディスカッション
第 11 回	職業選択と適性 II	【VPI 職業興味検査実習】
第 12 回	キャリア発達論	スバルのキャリア自己概念、ライフカリキュラム、キャリア発達段階に関する課題発表とディスカッション
第 13 回	キャリア構築論	キャリアに関する課題発表とディスカッション
第 14 回	働く動機	マクロの欲求 5 段階説、その他モード論に関する課題発表とディスカッション
第 15 回	組織内キャリア発達 I	シャインのキャリア・アカ、組織の 3 次元モデル等に関する課題発表とディスカッション
第 16 回	組織内キャリア発達 II	【キャリア・アカ診断実習】
第 17 回	キャリア・アカ	山本寛のキャリア・アカに関する課題発表とディスカッション
第 18 回	キャリア意思決定における社会的学習理論	バービューラのセラフエイギー、社会的学習理論およびクルンベルツのキャリア意思決定、計画された偶発性に関する課題発表とディスカッション
第 19 回	キャリア意思決定	ジュラットの意思決定プロセスに関する課題発表とディスカッション
第 20 回	関係性アプローチ	ホールのプロティアン・キャリアに関する課題発表とディスカッション
第 21 回	統合的キャリア発達	バンゼの統合的キャリア発達に関する課題発表とディスカッション
第 22 回	トランジション論 〔出来事の視点〕	ショーフォードの出来事としての転機に関する課題発表とディスカッション
第 23 回	トランジション論 〔発達の視点〕	アリジンズの発達段階としてのトランジションに関する課題発表とディスカッション
第 24 回	アイデンティティのらせん式発達モデル	エリクソン、マッキ、岡本祐子に関する課題発表とディスカッション
第 25 回	キャリア・ストレスとワーク・ライフバランス	金井篤子の職務ストレス、キャリア・ストレス、ワーク・ライフバランスに関する課題発表とディスカッション
第 26 回	事例発表	個別にインタビューした事例にキャリア理論・アプローチを適用して発表する。

第 27 回 総合討論

あるテーマにキャリア理論・アプローチを適用し、グループ討議、および全体で共有する。

第 28 回 総括

授業を総括する。
(仕事、職業キャリア発達と心理・社会的発達に関する岡田のモデル他)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当箇所の発表準備。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

渡辺三枝子編著 2007 「新版キャリアの心理学」 ナカニシヤ出版
岡田昌毅著 2013 「働くひとの心理学－働くこと、キャリアを発達させること、そして生涯発達すること－」 ナカニシヤ出版

【参考書】

その他 講義資料の配布、関連文献図書の紹介は授業内で適宜行う。

【成績評価の方法と基準】

2回のテーマ発表【必須】（80%）。

授業への貢献（20%）。

なお、担当テーマは授業の中で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

社会人大学生のニーズに応えられるよう継続的に工夫をいたします。

【学生が準備すべき機器他】

I C レコーダーをお持ちの方は初回授業時に持参してください。

【その他の重要事項】

授業は 6 月初旬～8 月初旬の日曜集中で実施します。

初回授業においてそれ以降の授業で必要となるキャリア・インタビューを実施しますので、必ず出席してください。

授業日程・時間帯等が変則的ですので、ご注意ください。

なお、授業内容や順番など一部変更する可能性があります。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

キャリア心理学、キャリア・カウンセリング

<研究テーマ>

・仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究

・キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ

<主要研究業績>

・岡田昌毅・金井篤子：仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とプロセスの検討－企業における成人発達に焦点をあてて－、産業・組織心理学研究, 20, 51-62, 2006

・堀内泰利・岡田昌毅：キャリア自律が組織コミットメントに与える影響、産業・組織心理学研究, 23, 15-28, 2009

・高橋南海子・岡田昌毅：就職活動による自己成長感の探索的検討、産業・組織心理学研究, 26, 121-138, 2013

・原恵子・小玉正博・岡田昌毅：中堅キャリア支援者における職業的発達プロセスに関する探索的研究、キャリアデザイン研究, 9, 49-63, 2013

・菊入みゆき・岡田昌毅：職場における同僚間の達成動機の伝播に関する研究、産業・組織心理学研究, 27, 101-116, 2014

・正木澄江・岡田昌毅：企業従業員の働くことの意味醸成プロセスに関する探索的検討、産業・組織心理学研究, 28, 43-57, 2014

・中村准子・岡田昌毅：企業で働く人の職業生活における心理的居場所感に関する研究、産業・組織心理学研究, 30, 3-16, 2016

・須藤章・岡田昌毅：役職定年者の会社に留まるキャリア選択と組織内再適応プロセスの探索的検討、産業・組織心理学研究, 32, 15-30, 2018

【Outline and objectives】

In order for the career counselor to properly support the client, it is desirable to approach various issues and tasks of the client from various perspectives. By understanding career related theories and approaches broadly, understand their mutual relationships and differences, and acquire the foundation of application to practice.

PSY500M1 - 1202

教育心理学

田澤 実

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に【発達】【パーソナリティ・心理尺度】【学習理論】【認知・臨床】を学ぶ。これらは教育心理学の伝統的なテーマでもあり、キャリアとの関連性が深い特徴がある。

【到達目標】

自らの関心テーマについて「学び」という観点から再考し、学びを支援する立場になった際に、教育心理学の専門的な知識を踏まえた工夫ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と授業内の発表。課題等の提出後に授業内でフィードバックを行う。履修者が入試基準人数以下かつ履修者の3分の1以上が希望した場合は対面またはハイブリッドにて実施。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の内容について説明をする。発達と教育の関連について扱う。ヴィゴツキーの発達の最近接領域などを説明する。
第 2 回	学習の適時性	人の一生を 8 つの段階に区分したエリクソンのアイデンティティについて説明する。
第 3 回	生涯発達とアイデンティティ	教育心理学における量的研究や質的研究／質的研究
第 4 回	性格の測定	教育心理学に関する研究や質的研究を読むときに必要な知識について説明する。
第 5 回	モチベーション	教育心理学に関する研究でよく用いられている性格テストを体験する。
第 6 回	自己効力 (1)	内発的動機づけ、外発的動機づけ等を扱う。
第 7 回	自己効力 (2)	パンデューラの社会的学習理論について説明する。
第 8 回	キャリア意識の効果測定 (1)	受講者による上記の関連文献のレビュー発表。
第 9 回	キャリア意識の効果測定 (2)	大学におけるキャリア意識の発達に関する効果測定テストの活用事例を扱う。
第 10 回	時間的展望 (1)	受講者による上記の関連文献のレビュー発表。
第 11 回	時間的展望 (2)	キャリアの概念には「時間」が含まれることがある。個人が過去を振り返ったり、将来を見通したりすることについて心理学的な見解を紹介する。
第 12 回	時間的展望 (3)	受講者による上記の関連文献のレビュー発表。
第 13 回	学習と教授法	学習理論に基づいた指導法を扱う。
第 14 回	学習の転移	以前に学んだことが、次に学ぶ際にどのような影響を及ぼすのかについて扱う。
第 15 回	ワークショップによる学び (1)	ワークショップを理解するための学習理論を紹介する。
第 16 回	ワークショップによる学び (2)	受講者による上記の関連文献のレビュー発表。
第 17 回	レポート構想発表	受講者による発表。自らの関心テーマについて「学び」という観点からまとめる。質疑応答を行い、今後の方針を考える。
第 18 回	経験学習 (1)	Kolb の経験学習を扱う。
第 19 回	経験学習 (2)	受講者による上記の関連文献のレビュー発表。
第 20 回	記憶のメカニズム	人間が記憶をする際に、どのようなプロセスを辿るのか紹介する。
第 21 回	発達障害 (1)	発達障害の種類や特徴について理解する。学びや就労の場面においてどのような困難が生じやすいのか説明する。
第 22 回	発達障害 (2)	受講者による上記の関連文献のレビュー発表。
第 23 回	ひきこもり・ニート支援	ひきこもり状態およびニート状態の若者の心理状態と支援枠組を紹介する。

第 24 回 若者支援（1）	包括的な若者支援を紹介する。支援が必要な若者の心理状態について説明する。
第 25 回 若者支援（2）	受講による上記の関連文献のレジュメ発表。
第 26 回 レポート進捗発表（1）	各自、中間発表での指摘を受けて、レポートの完成を目指して最後の発表をする。
第 27 回 レポート進捗発表（2）	レポートの完成を目指して最後の発表をする。質疑応答を踏まえて、レポートの構成の方向性を固める。
第 28 回 レポートのフィードバック	最終レポートの返却と解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を事前に配布する。受講生にレジュメ発表を求める回もある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

梅崎修・田澤実 2013 『大学生の「学び」とキャリア』 法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 40 %、レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、受講者に進行案を示し、意見を交わして、進め方の調整をしていく。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

受講者の人数によって、シラバスは変更することがある（「レポート作成に向けて」の回数およびタイミングなど）。また、受講者の関心にあわせて、扱う関連論文を変更することもある。初回の授業でその調整の仕方について説明する。

【担当教員の専門分野等】

<http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/22/0002181/profile.html>

【Outline and objectives】

This course introduces the characteristics of mental and physical development and basic knowledge on learning theory to students taking this course.

PSY500M1 - 1203

産業・組織心理学

坂爪 洋美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人々が働くことを通じて経験する現象を心理学的視点から理解しようとする学問領域です。例えば「こんな（低い）評価をあんな上司がつけたのかと思うとやる気にならない」という私達がどこかで経験する現象は、公平性・リーダーシップ・モチベーションといった概念で説明することができます。本授業では、このような産業・組織心理学の主要な概念について理解することを目的とします。授業では、人を人材として活用しようとする組織（主として企業）の観点と、より良く働こうとする個人（何を「良い」と考えるかは多岐に渡ります）の観点双方を意識し、各トピックについてレクチャーならびに議論していきます。

【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおりです。

- ①授業計画の部分で提示する産業・組織心理学の主要な概念を用いて、職場でおきている様々な現象を説明できるようになること
- ②産業・組織心理学の主要な概念をもちいた心理学系の論文を読みこなすことができるようになること
- ③修士論文作成を視野に入れた上で、産業・組織心理学の主要な概念をもじいて、自ら仮説の提示ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業実施形態は、受講状況（履修者が教室の基準人数以下であること、かつ履修者の対面授業の希望状況）により、どの程度対面形式で実施するか決定します。

上記を踏まえ、初回のオリエンテーションを zoom で行います。初回授業日の前日までに zoom の案内を学習支援システムに皆さん登録したアドレスに送りますので、学習支援システム上の登録をお願いします。

各回の授業は、前半に講義・後半がディスカッションもしくは論文の輪読となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

授業内容に対する質問等に対するフィードバックは原則当日の授業内に、授業終了後に寄せられた質問に対するフィードバックは翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション ①	授業の内容ならびに進め方を紹介する。
第 2 回	授業オリエンテーション ②	心理学というパースペクティブに基づく物事の捉え方について説明した上で、受講生の問題意識をお互いに紹介する。
第 3 回	モチベーション①	モチベーションの基本的な理論についてレクチャーする。
第 4 回	モチベーション②	モチベーションの関連文献についてディスカッションを行う。
第 5 回	リーダーシップ①	リーダーシップの基本的な理論についてレクチャーする。
第 6 回	リーダーシップ②	リーダーシップの関連文献について読み、ディスカッションを行う。
第 7 回	公平性①	評価をめぐって議論となる公平性についてレクチャーする。
第 8 回	公平性②	公平性の関連文献について読み、ディスカッションを行う。
第 9 回	職場の力①	個人と組織の中間に位置する職場について、レクチャーを行う。
第 10 回	職場の力②	職場に関する文献を元にディスカッションを行う。
第 11 回	経験学習①	能力開発の中心となる仕事経験について、レクチャーを行う。
第 12 回	経験学習②	能力開発の関連文献を元にディスカッションを行う。
第 13 回	キャリアの主要概念①	キャリアの主要な概念について概観する。
第 14 回	キャリアの主要概念②	キャリアの主要文献を読み、ディスカッションを行う。
第 15 回	キャリアの転機①	キャリアの転機の 1 つである転職ならびに失業についてレクチャーを行う。

- 第 16 回 キャリアの転機②
転職ならびに失業についての心理学的観点からの論文を読み、ディスカッションを行う。
- 第 17 回 組織コミットメント①
組織と個人の関係性を示す概念である組織コミットメントについてレクチャーする。
- 第 18 回 組織コミットメント②
組織コミットメントに関する文献を読み、ディスカッションを行う。
- 第 19 回 心理的契約①
組織と個人の関係性を示す概念である心理的契約についてレクチャーする。
- 第 20 回 心理的契約②
組織と個人の関係性を示す概念である心理的契約の関連文献を読みディスカッションを行う。
- 第 21 回 働きがいと働きやすさ①
学問的には定義が曖昧であるが、近年取り上げられることの多い2つの概念の関連文献について講義を行う。
- 第 22 回 働きがいと働きやすさ②
働きがい・働きやすいの関連文献を読み、ディスカッションを行う。
- 第 23 回 ワーク・ライフ・バランス①
ワーク・ライフ・バランスの現状と課題について、レクチャーを行う。
- 第 24 回 ワーク・ライフ・バランス②
ワーク・ライフ・バランスの現状と課題について、心理学的観点からの論文を読みディスカッションを行う。
- 第 25 回 ダイバーシティ：女性活用①
女性活用の現状と課題についてレクチャーする。
- 第 26 回 ダイバーシティ：女性活用②
女性活用の現状と課題について、心理学的観点からの論文を読みディスカッションを行う。
- 第 27 回 職場のメンタルヘルス①
ストレスを含めたメンタルヘルスの現状についての講義を行う。
- 第 28 回 職場のメンタルヘルス②
ストレスを含めたメンタルヘルスとその対応に関する論文を読みディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等】

指定文献については、受講者全員が事前に読んだ上で出席することを求めます。また、指定文献のレジュメ作成を受講者で分担します。これとは別にレポート提出を求めます（レポートの内容については初回の授業で説明します）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません

【参考書】

授業内で適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

担当するレジュメ 30 %

期末に提出するレポート 70%

【学生の意見等からの気づき】

指定文献ならびに課題の難易度に幅を持たせることで、様々な学生のニーズに対応できるようにします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業・組織心理学 人材マネジメント

<研究テーマ>

ダイバーシティ・マネジメント ならびに ワーク・ライフ・バランス

<主要研究業績>

坂爪洋美（2016）「大学生の組織選好度の推移：2004 年から 2016 年までの変化」生涯学習とキャリアデザイン、3-19.

坂爪洋美（2015）「管理職がいだく育児を理由とした短時間勤務制度利用者のキャリア展望：その影響と規定要因の検討」生涯学習とキャリアデザイン、61-76.

坂爪洋美（2014）「大学生のキャリア・オリエンテーションの変化：2004 年～2012 年のデータを用いた分析」和光大学現代人間学部紀要、7, 195-214.

坂爪洋美（2014）「職業紹介担当者の能力ならびにスキル：ハイ・パフォーマーの特徴を明らかにする」『人材サービス産業の新しい役割』、有斐閣。

坂爪洋美（2012）「多様な人材の活躍を可能にするワーク・ライフ・バランス」『<先取り>志向>の組織心理学』、有斐閣

【Outline and objectives】

This course will provide an Introduction to Industrial and Organizational Psychology, a scientific discipline that studies human behavior in the workplace. The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of Industrial and Organizational Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of Industrial and Organizational psychology.

キャリアカウンセリング論**廣川 進**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの理論的理解とキャリアカウンセリングによるキャリア開発、キャリア形成支援のありかたを具体的に事例を交えて深く学ぶ

【到達目標】

キャリアカウンセリングに求められるカウンセリングの基本的理解、心理学による人間行動の基本的理解、キャリアカウンセリングの機能とその役割を理解し、それぞれ必要とされる場面において適切なクライエント理解とその支援ができる力を学生が身に付けることを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

キャリアカウンセリングの理論的理解を基礎として、その応用となる事例の理解を合わせて行ないながら、実践的な側面からもキャリアカウンセリングを理解する。講義とそれに関する課題の討議、また、講義にそって、キャリアカウンセリングの事例の検討、討議を行ない、実践的事例を通して、実践的な力を合わせてつける。

授業の形式は以下の2つのパターンからなる。A) テキストを受講生が分担してレジュメを作り発表し討議する。B) 受講生が提供する事例をもとに事例検討する。

授業の最初に、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1.	キャリアカウンセリングとは何か。その定義と機能、役割。	現代社会で求められるキャリアカウンセリングのニーズに適正に応えることができるためには、キャリアカウンセリング、キャリアカウンセラーはどうあるべきか。その定義と役割・機能について学ぶ
2.	1. のテーマに関して討議を行なう。	現在のキャリアカウンセリングの課題、キャリアカウンセラートシタント資格の課題、あるべき姿などについて討議する。
3.	カウンセリングとは何か、その機能と役割-①	キャリアカウンセリングを具体的に学ぶ前に、カウンセリングとは何かについて、主要なカウンセリング理論を通して学ぶ-①
4.	3のテーマに関して討議を行う-①	カウンセリングの基礎理論をもとに事例検討を行なう-①
5.	カウンセリングとは何か、その機能と役割-②	キャリアカウンセリングを具体的に学ぶ前に、カウンセリングとは何かについて、主要なカウンセリング理論を通して学ぶ-②
6.	5のテーマに関して討議を行う-②	カウンセリングの基礎理論をもとに事例検討を行なう-②
7.	人間行動の理解と基礎心理学-①	クライエントの行動を理解するために、基本的な心理学の理論を理解する必要があるが、行動科学としての心理学を学ぶ-①
8.	7のテーマに関して討議を行う-②	心理学の基礎理論を基に、キャリアカウンセリングにおけるクライエント理解について討議する
9.	人間行動の理解と基礎心理学-②	クライエントの行動を理解するために、基本的な心理学の理論を理解する必要があるが、行動科学としての心理学を学ぶ-②
10.	9のテーマに関して討議を行う-②	心理学の基礎理論を基に、キャリアカウンセリングにおけるクライエント理解について討議する
11.	キャリアカウンセリング理論-①	キャリアカウンセリングの背後にある、キャリア心理学、キャリアカウンセリングの理論について学ぶ-①
12.	11 のテーマに関して討議を行なう-①	キャリア心理学、キャリアカウンセリング理論に基づく事例研究を行なう-①
13.	キャリアカウンセリング理論-②	キャリアカウンセリングの背後にある、キャリア心理学、キャリアカウンセリングの理論について学ぶ-②
14.	12 のテーマに関して討議を行なう-②	キャリア心理学、キャリアカウンセリング理論に基づく事例研究を行なう-②

- 15 生涯発達とキャリアカウンセリング
人間の発達ステージと発達課題、キャリア発達の支援としてのキャリアカウンセリングを発達と関係付けて学ぶ
発達ステージによるキャリア支援の違いとキャリアカウンセリングの事例検討を行なう
- 16 15 のテーマに関して討議を行なう
- 17 組織・企業におけるキャリアカウンセリング、キャリア支援のありかた
組織。企業において、従業員のキャリア開発、キャリア形成の支援としてキャリアカウンセリングの役割と機能、キャリア相談室について学ぶ
- 18 17 のテーマに関する討議を行なう
企業。組織におけるキャリアカウンセリングの具体的な事例を取り上げ、討議し事例検討する
- 19 学校におけるキャリア支援とキャリアカウンセリング
キャリア教育とキャリアカウンセリング、就職支援とキャリアカウンセリングなど学校におけるキャリアカウンセリングを学ぶ
学校場面ではキャリアカウンセリングはどのような役割を果たすか、事例検討を行なう
- 20 19 のテーマに関する討議を行なう
学校場面ではキャリアカウンセリングはどのような役割を果たすか、事例検討を行なう
- 21 キャリアとメンタルヘルス
キャリアとメンタルヘルス不調は大きな関係性があるが、復職とキャリア再形成、職場適応など、メンタルヘルス不調者の支援について学ぶ
- 22 21 のテーマに関して討議を行なう
メンタルヘルス不調者のキャリアの事例検討を行い、メンタルヘルス不調者の支援のありかたを討議する
- 23 障害者のキャリア支援とキャリアカウンセリング
発達障害とは何か、発達障害者のキャリア支援とキャリアカウンセリングの役割、特例会社などについて学ぶ
発達障害者のキャリア支援について、事例検討を行ない障害者支援について討議する
- 24 23 のテーマに関する討議を行なう
女性のキャリア開発、キャリア形成の課題とキャリアカウンセリングによる支援について学ぶ
- 25 女性のキャリア支援とキャリアカウンセリング
女性のキャリア支援のためのキャリアカウンセリングのあり方、事例検討を行なう
- 26 25 のテーマに関して討議を行なう
多様なキャリア理論、カウンセリング理論を統合したアプローチ方について学ぶ-①
- 27 キャリアカウンセリングの統合的アプローチ-①
多様なキャリアカウンセリングを理論を統合した事例検討を行なう-①
- 28 27 のテーマに関して討議を行なう-①
多様なキャリアカウンセリングを理論を統合した事例検討を行なう-①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近なキャリアカウンセリングの具体的な事例を収集して、事例検討の場に活用できるように準備をする。（個人情報のとり扱いに注意）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「新版キャリアの心理学 キャリア支援への発達的アプローチ」 渡辺三枝子（ナカニシヤ出版）

など

受講生と相談して決めます

【参考書】

- 「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来」（労働政策研究・研修機構）
「多様化する「キャリア」をめぐる心理臨床からのアプローチ」長尾博 ミネルヴァ書房
「社会正義のキャリア支援」下村英雄 図書文化
「キャリアコンサルタントのためのカウンセリング入門 杉原保史 北大路書房
「キャリアカウンセリング」宮城まり子駿河台出版社
「セルフ・キャリアドック入門」高橋浩 金子書房
「キャリアを超えて ワーカング心理学 働くことへの心理学的アプローチ」DL ブルステイン（白桃書房）
授業中に適宜文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

討論への参加状況（40 %）
提出課題（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

事例検討は長時間にわたって受講者の負担が大きくならないように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【担当教員の専門分野等】

臨床心理学、生涯発達心理学、キャリア心理学とキャリアカウンセリング
産業心理学を専門とする

【Outline and objectives】

We study the theory of career counseling and career development. We can practically learn through case studies

SOC500M1 - 1205

コミュニティとキャリア

田中 研之輔、安田 節之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、コミュニティとキャリアに関する①理論的視座を多面的・経験的に習得した上で、②実践的視座を組織エスノグラフィーとプログラム評価の観点から理解し、調査・研究のデザインの方法を学びます。

前半の第 1 回～第 14 回（担当：田中）では、コミュニティを考える上で重要な視点となる「社会・物質」空間」と「社会」集団」への見識を深め、この空間的視座と集団論的視座を交錯させながら、組織エスノグラフィーの視点から実践的検討します。

また後半の第 15 回から第 28 回（担当：安田）では、企業組織・教育機関・地域コミュニティで実施されるキャリア支援や人材育成・組織開発をプログラムの視点から構造化し、その効果や成果をデータに基づいて構造化し、その効果や成果をデータに基づいて評価し、活動の質向上につなげるための方法論であるプログラム評価について学びます。

【到達目標】

- ①コミュニティとキャリアに関する理論的視座の包括的理性和具体的な洞察の分析ができるようになる。
- ②コミュニティとキャリアに関する実践的視座を『組織エスノグラフィー』と『プログラム評価』の観点から理解し、実践研究の設計・デザインを行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、各回において、「理論」と「経験的事例」とを相互に行き来しながら検討を進めていきます。各回ともに、前半は理論的視座および実践的視座について解説を加えています。後半はコミュニティとキャリアに関する具体的な問題をとりあげ、ディスカッション形式を適宜取り入れながら理解を深めています。受講生は課題論文を読み込み、議論に積極的に参加して頂きます。フィードバックは、リアクションペーパーと課題への全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/ Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/ No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	組織エスノグラフィーにおけるコミュニティとキャリア：	組織エスノグラフィーという手法をも用いてコミュニティとキャリアを考察する理論的視座の導入的理解をすすめる。
第 2 回	組織エスノグラフィーの学問的系譜	組織エスノグラフィーの学問的系譜を整理する。
第 3 回	組織エスノグラフィーの集団分析について見識を深める。	組織エスノグラフィーの集団分析について見識を深める。
第 4 回	組織エスノグラフィーの空間分析について見識を深める。	組織エスノグラフィーの空間分析について見識を深める。
第 5 回	組織エスノグラフィーのキャリア分析について見識を深める。	組織エスノグラフィーのキャリア分析について見識を深める。
第 6 回	組織エスノグラフィーの関係分析について見識を深める	組織エスノグラフィーの関係分析について見識を深める。
第 7 回	組織エスノグラフィーの方法論を習得する。	組織エスノグラフィーの方法論を習得する。
第 8 回	組織エスノグラフィーの読み方を習得する。	組織エスノグラフィーの読み方を習得する。
第 9 回	組織エスノグラフィーの書き方を学ぶ	組織エスノグラフィーの書き方を学ぶ。
第 10 回	組織エスノグラフィーの記述分析	組織エスノグラフィーの記述分析。
第 11 回	組織エスノグラフィーの構造化	組織エスノグラフィーの構造化を学ぶ。
第 12 回	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方について理解する。	組織エスノグラフィーのクリティカルな読み方について理解する。
第 13 回	組織エスノグラフィーの伝え方について理解する。	組織エスノグラフィーの伝え方について理解する。
第 14 回	組織エスノグラフィーの研究構想について検討を行う	組織エスノグラフィーの研究構想について検討を行う。
第 15 回	ガイダンス	後半の授業概要の説明と学修目標の確認など
第 16 回	プログラム評価とは	ライフキャリア支援等を目的とした「プログラム」を「評価」することの意義をプログラム評価の定義から学ぶ。

第 17 回 評価の目的と評価者の役割	プログラム評価の目的および評価者・ステークホルダーの役割について検討する。
第 18 回 ニーズアセスメント	プログラムやサービスの利用者（クライエント）のニーズの分類とニーズアセスメントの種類について検討する。
第 19 回 問題分析	プログラムが必要となる社会的背景（問題・課題）の分析を行う。
第 20 回 ゴールの可視化	活動方針やゴールを可視化する方法を学ぶ。
第 21 回 ロジックモデルの開発①	プログラムの流れを可視化するためのツールであるロジックモデルの原案を作成する。
第 22 回 ロジックモデルの開発②	ロジックモデルを完成させる。
第 23 回 評価クエスチョン	評価の実施を想定した評価クエスチョンを設定する。
第 24 回 評価可能性アセスメント	実際に評価が可能か否かを査定する評価可能性アセスメントについて学ぶ。
第 25 回 プロセス評価	プログラムの流れ（プロセス）を評価する方法を学ぶ。
第 26 回 アウトカム評価①	アウトカム指標の検討を行う。
第 27 回 アウトカム評価②	主にフィールドでの実験・準実験デザインによるアウトカム評価の概要を学ぶ。
第 28 回 まとめ	テクニカルレポート（評価報告書）の内容と作成方法を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等】

本授業では、授業支援システムやオンラインツールを用いて、各回の課題論文を共有していきます。各回の課題論文を読み込み、各自の論点メモを準備してください。また、授業内で課題として残った疑問や授業後にあらためて抱いた疑問や論点等についても、授業支援システム等で議論を重ねていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中研之輔・山本和輝 2019『辞める研修 辞めない研修－新人育成の組織エスノグラフィー』（ハーベスト社）
安田節之 2011『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために』（新曜社）
*その他、必要となる課題論文は PDF 版にして事前に配布します。

【参考書】

田中研之輔 2015『井家の経営－24 時間営業の組織エスノグラフィー』（法律文化社）
田中研之輔・山崎正枝 2016『走らないトヨターネッツ南国組織エスノグラフィー』（法律文化社）
安田節之 渡辺直登 2008『プログラム評価研究の方法』（新曜社）
コミュニティ心理学会研究委員会 2019『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）』（新曜社）
講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題への取り組みや講義への参加姿勢）50%+課題レポートの総合評価 50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関連する補足文献を適宜アップデートしていく。

【担当教員の専門分野等】

田中研之輔
<専門領域>
ライフキャリア論・社会学
<研究テーマ>
組織エスノグラフィー・プロティアン キャリア論
<主要研究業績>
『覚醒せよ、わが身体－トライアスリートのエスノグラフィー』(2018) ハーベスト社
『走らないトヨターネッツ南国組織エスノグラフィー』(2016) 法律文化社
『井家の経営－24 時間営業の組織エスノグラフィー』(2015) 法律文化社
* その他 → <http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/21/0002083/profile.html>

【担当教員の専門分野等】

■ 安田節之
<専門領域>
プログラム評価論、コミュニティ心理学
<研究テーマ>
対人・コミュニティ援助の評価研究およびコンサルテーション研究、超高齢社会におけるライフキャリア研究、ベストプラクティス・アプローチに基づく評価研究など
<主要研究業績>
①『プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）』（安田節之、2011 年、新曜社）
②『プログラム評価研究』（安田節之・渡辺直登、2008、新曜社）
③『コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）』（日本コミュニティ心理学会研究委員会、2019 年、新曜社）
参考： <https://programevaluationlab.jp/training/program-evaluation/>

【Outline and objectives】

The first half of this course aims to provide a “how to” of organizational ethnographic research and, in the process, examine the epistemology, conduct, and power relations of fieldwork. Organizational ethnography is useful in a wide range of settings for research questions that seek to explore the meanings to situational actors of particular practices, concepts or processes.

In the second half of the class, students will learn how to address a variety of issues and problems that are pertinent to one's career in the industrial/educational organizations and local communities on research studies. In particular, we focus attention on theories and methods of program evaluation (PE). PE is a systematic approach that helps researchers/practitioners to identify critical issues and structures for understanding and improving programs. Special attentions will be placed on learning how one can measure processes and effectiveness of the programs that are of interest to each student.

EDU500M1 - 1301

キャリアガイダンス論

児美川 孝一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、キャリアガイダンスを「キャリア支援・教育」とほぼ同義のものと広く解する。そのうえで、キャリアガイダンスの制度・システムや政策にかかる諸問題を踏まえつつ、より実践に近い支援現場における課題について、理論的に検討することをねらいとする。
支援場面における問題や課題の背景には、当然、社会構造や労働市場の動態、企業の雇用方針、政策動向といった問題が存在しているので、本来、両者を切り離すことはできない。

【到達目標】

受講者が、①さまざまな場におけるキャリアガイダンスの諸課題について、社会的背景と現場の問題とを往還しながら理解できるようになること、②そのうえで、問題解決への見通しを展望できるようになることが、本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業において、主として検討の対象とするのは、①学校（専門学校や大学を含む）におけるキャリア支援・教育、および②コミュニティにおける若年キャリア支援である。

必要に応じて、キャリアガイダンスにかかる理論や実態調査の報告書の検討、諸外国で行われているキャリアガイダンス施策の事例紹介なども行う。
授業の方法としては、①教員によるレクチャー、②報告者によるレポート発表（文献発表、個人報告）、③受講者によるディスカッションの組み合わせを基本とする。中心となるのは、②と③である。

キャリア支援の現場にいる実践者をゲストにお呼びしてディスカッションすることも検討したい。

提出された課題等へのフィードバックは、授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス①	授業の内容・方法・進め方について説明する。
第 2 回	授業ガイダンス②	「キャリアガイダンス」をどう把握するかについて、講義とディスカッションを行う。
第 3 回	キャリア教育とキャリア教育政策①	キャリア教育の捉え方、および日本における政策展開について講義する。
第 4 回	キャリア教育とキャリア教育政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 5 回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）①	学校で行われている職場体験・インターンシップについて講義する。
第 6 回	学校におけるキャリア教育（職場体験・インターンシップ）②	レポート発表、全体でのディスカッションを行う。
第 7 回	学校におけるキャリア教育（進路指導）①	学校における進路指導について、講義する。
第 8 回	学校におけるキャリア教育（進路指導）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 9 回	学校におけるキャリア教育（教科）①	教科教育を通じたキャリア教育について、講義する。
第 10 回	学校におけるキャリア教育（教科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 11 回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）①	高校普通科におけるキャリア教育の現状と課題について講義する。
第 12 回	学校におけるキャリア教育（高校普通科）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 13 回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）①	学校で行われるキャリアカウンセリングについて講義する。
第 14 回	学校におけるキャリア教育（キャリアカウンセリング）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 15 回	諸外国におけるキャリア教育①	諸外国におけるキャリア教育について講義する。
第 16 回	諸外国におけるキャリア教育②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。

第 17 回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）①	大学で実施されているキャリア教育科目について講義する。
第 18 回	大学におけるキャリア支援・教育（キャリア教育科目）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 19 回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）①	大学生の就職活動、および大学におけるその支援の現状について講義する。
第 20 回	大学におけるキャリア支援・教育（就職活動）②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 21 回	若年支援と若年支援政策①	若年支援の捉え方、および諸外国と日本における若年支援策について講義する。
第 22 回	若年支援と若年支援政策②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 23 回	ジョブカフェにおけるキャリア支援①	ジョブカフェにおけるキャリア支援の実態と課題について講義する。
第 24 回	ジョブカフェにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 25 回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援①	若者サポートステーションにおけるキャリア支援の現状と課題について講義する。
第 26 回	若者サポートステーションにおけるキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。
第 27 回	高校・大学中退者に対するキャリア支援①	高校・大学中退者に対するキャリア支援の課題について講義する。
第 28 回	高校・大学中退者に対するキャリア支援②	レポート発表と全体でのディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布される指定文献を読み込み、疑問点や評価できる点等を精査すること。

文献発表および個人報告に際しては、入念な準備を行い、授業時に報告する前に、担当教員からの指導を受けること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

授業時に、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、①平常点（ディスカッションへの参加等）30 %、②授業内で発表するレポート 30 %、③適宜、提出を求めるレポート課題 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

より双方的な授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によって、パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

授業に関連したディスカッションや情報交換を促す目的で、SNS 等のソーシャルネットワークを活用する。（具体的には、Facebook を予定）

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 教育学

<研究テーマ> キャリア教育、青年期教育

<主要研究業績>

- ①『若者とアイデンティティ』（法政大学出版局、2005 年）
- ②『権利としてのキャリア教育』（明石書店、2006 年）
- ③『若者はなぜ「就職」できないのか』（日本図書センター、2011 年）
- ④『これが論点！ 就職問題』（編著、日本図書センター、2012 年）
- ⑤『「親活」の非ススメ』（徳間書店、2013 年）
- ⑥『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマ－新書、2013 年）
- ⑦『まず教育論から変えよう』（太郎次郎社エディタス、2015 年）
- ⑧『夢があふれる社会に希望はあるか』（ベスト新書、2016 年）
- ⑨『高校教育の新しいかたち』（泉文堂、2019 年）

【Outline and objectives】

This course introduces the concept, theories, policies and methods of career guidance, and discuss about examples of practice in Japan.

EDU500M1 - 1302

教育経営論

高野 良一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、"教育経営イノベーションの考え方を学ぶ"です。大学を含む学校組織・経営管理に関するトピックを取り上げ、それを分析するツールとして、教育学だけでなく組織科学や経営学などの理論知及び実践知を用います。例年、受講者の興味関心とマッティングを図って、授業計画に掲げたトピックのうち、一つのトピックを3, 4回かけて取り上げてきました。今年は、イノベーション論、チーム（チーミング、同僚性）論、専門職論、経験学習論に注目したいと考えています。

【到達目標】

この授業では、「(修論を)書くために読む」というアカデミック・スキルの習熟が目標となります。論考や論文を読み解きレジメを作成し、それを基にプレゼンテーションして議論するというアクティブラーニングです。同時に、各回のテーマに即した論考や論文を通して、学問的・専門的な知識やコンセプト、発想法や考え方を理解し習得することになります。そして、自らの現場とそれらの理論知や専門知との接点を探り、自らの研究課題に新たな光を当てたり、課題を深めたりすることにもなるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は「反転学習」を基本とします。事前に講読文献の趣旨説明と指定を行い、講義では各自のレジメ発表と全員での議論をおこないます。もちろん、最初は講義形式も採用して、順次「反転学習」に移行します。また、2時間連続授業ですから、前半は各自のレジメの発表と質疑応答、後半は議論という展開になります。

課題等のフィードバックについては、「反転授業」では事前作成のレジメを授業中コメントすることになります。また、授業のまとめの最終回、各自修了レポートの報告会となり、個別及び全体に対する議論とフィードバックがおこなわれます。

なお、トピックやテーマは、授業計画に提示しましたが、授業の展開や受講生の興味関心に従って、追加や変更もあります。また、授業は対面を原則としますが、適宜、ZOOMで行うことも予定しています。第1回授業の際に、受講生の意向も聞きたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	教育経営イノベーション	授業のねらいや内容をオリエンテーションし、受講者の関心を交流する
第2回	「一人称研究」の薦め	諷訪正樹の「一人称研究」論に学ぶ。
第3回	「一人称研究」の薦め（続）	「一人称研究」の視点から受講者の研究テーマを交流する
第4回	イノベーションの考え方と類型	クリステンセンのイノベーション論に学ぶ
第5回	イノベーションの考え方と類型（続）	イノベーションの考え方と2類型を考える
第6回	学校イノベーション	アメリカの学校イノベーションを知る
第7回	学校イノベーション（続）	日本の大学法人イノベーションを考える
第8回	カリキュラム・イノベーション	アメリカのブレンディッド・ラーニングに学ぶ
第9回	カリキュラム・イノベーション（続）	日本の大学キャリア教育カリキュラムを考える
第10回	チームマネジメント	「チーム学校」と同僚性を考える
第11回	チームマネジメント（続）	アメリカのチーミングム論に学ぶ
第12回	学校組織文化	組織文化論の基本（E. シャイン）を学ぶ
第13回	学校組織文化（続）	日本の学校文化を再考する
第14回	中間レポート発表	テーマを交流し、前半授業の振り返る
第15回	教育のソーシャル・キャピタル	教育の社会関係資本論を整理する
第16回	教育のソーシャル・キャピタル（続）	教育の信頼とネットワークを考える
第17回	専門職としての教職員	現代教職の専門職化論を整理する
第18回	専門職としての教職員（続）	ショーンの「省察的実践家」論を考える
第19回	教員のコンピテンシー	コンピテンシー（資質・能力）論を学ぶ
第20回	教員のコンピテンシー（続）	コンピテンシー評価を考える

第21回	教育におけるリーダーシップ	リーダーシップの基本を学ぶ
第22回	教育におけるリーダーシップ（続）	学校組織のリーダーシップを考える
第23回	管理職の経験学習	松尾睦の経験学習論に学ぶ
第24回	管理職の経験学習（続）	自らの経験学習を省察する
第25回	教職員の越境的な学び	越境的な学び論（越境的学習論）に学ぶ
第26回	教職員の越境的な学び（続）	越境的な学びを交流する
第27回	修了レポート発表	本授業の修了レポートを発表する
第28回	修了レポート発表（続）	個人発表、意見交換をし、講義を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前週までに配布された論考や論文を読み解きレジメを作成することを予習として求めます。また、各自が立てたテーマに即した中間発表と修了発表に向けた事前準備も必要になります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。本授業は「反転授業」のスタイルを採用するので、事前に学習すべき教材は各自にメールで配信します。

【参考書】

- ①諷訪正樹・藤井晴行『知のデザイン 自分ごととして考えよう』近代科学社
- ②マイケル・B・ホーン/ヘザー・ステイカー『ブレンディッド・ラーニングの衝撃』教育開発研究所
- ③ドナルド・A・ショーン『省察的実践者の教育』鳳書房
- ④松尾睦『成長する管理職』東洋経済新報社
- ⑤香川秀太他編『越境する対話と学び』新曜社

【成績評価の方法と基準】

レジメ作成とプレゼンテーションが40%、中間レポート発表と修了レポートの発表・提出が60%を目標にします。中間レポートは、問題意識や論考・論文の咀嚼を重視します。修了レポートは、中間レポートを発展させるだけでなく、論理性や説得力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「書くために読む」という知的トレーニングは最初はきついようですが、良い経験になるようです。また、「反転授業」の中で、受講者の現場や問題意識と理論知・実践知を繋ぐ対話にこれまでと同様に努めます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>教育行政・経営学 (educational management and administration)

<研究テーマ>学校イノベーションの日米比較、教育のソーシャルキャピタル、教職の専門職化

<授業関連業績>

- ①「もう一つのシカゴ大学実験学校としてのNKO」『キャリアデザイン学部紀要』2019
- ②「現代教職論を読み解く」『教職課程年報』16, 2018
- ③「義務教育機会確保法『市民立法』の可能性の中心」『日本教育政策学会年報2016』
- ④「社会関係資本のエース論」『教育社会学研究』94, 2014
- ⑤（共著）『地域教育の構想』同時代社、2010

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn the theories and views on the innovations in educational management. The topics are as follows; school and university restructuring, curriculum innovation, team management, leadership, professionalism and organizational learning.

EDU500M1 - 1303

キャリア教育論

上西 充子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若者の学校から職業への移行の困難、さらに若年労働者の働き方の劣悪さが社会問題化する中で、キャリア教育の在り方が改めて問われてきている。本授業では、若者をめぐる今日の社会状況と政策としてのキャリア教育を照らし合わせ、キャリア教育・キャリア支援が行うべきことは何であるのかを、一歩引いた視点から改めて問い合わせる。

【到達目標】

受講者一人一人が、それぞれの現場におけるキャリア教育・キャリア支援の抱える課題を認識し、キャリア教育・キャリア支援の枠組みを再考し、再構築できる。

修士論文作成に向けて、文献を的確に読み取った上で自らの論点を論述の中で展開できるようになる。

データの出所を確認してデータを的確に理解し、活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、テーマごとにあらかじめ関連する文献を読み、レジュメの作成と論点の提示をもとにディスカッションを行う。また、文献の内容を踏まえた論述の練習を適宜行い、論述の方法を実践的に習得する。データの出所を確認し、データの批判的検討も行う。受講者の実践現場の事例の報告と検討なども取り混ぜて行ない。

課題レポートについては次の授業回に具体的にフィードバックを行う。

テーマとしては下記の授業計画の内容を考えているが、受講者の方々の問題関心に応じて多少の変更がありうる。授業後半では、1冊の本をじっくり読むことも検討したい。

Covid-19 の状況に対応し、リアルタイム・オンライン方式で実施する可能性があるため、学習支援システムで確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	自己紹介と問題意識の共有／授業計画の説明／文献の種類と主要文献紹介
第 2 回	学術的な論述の基礎	事実と意見を書き分ける／出典の明示と紹介文／根拠を示した論述
第 3 回	紹介文課題の検討	紹介文課題の検討を通じ、論述の形式を学ぶ
第 4 回	論点を取り出し、考える	論点を取り出して論じ、説得力のある論述を行なう
第 5 回	論点考察課題の検討	論点を考察する課題を振り返り、論点との対話のあり方を検討する
第 6 回	実践と研究の関係	現場の視点を離れて研究することの意味を考える
第 7 回	他者の合理性の理解	他者の合理性の理解とは
第 8 回	「溜め」とエンパシー	「溜め」の厚さと薄さ、エンパシーの視点的重要性
第 9 回	労働問題とキャリア教育	若年雇用問題とキャリア教育
第 10 回	キャリア教育と労働法教育	キャリア教育の視点、労働法教育の視点
第 11 回	政策としてのキャリア教育の経緯	キャリア教育施策の展開と背景
第 12 回	政策としてのキャリア教育の課題	キャリア教育施策の概要と問題点
第 13 回	現場から見たキャリア教育	受講者の現場から見たキャリア教育の現状の振り返り
第 14 回	現場から見たキャリア教育の課題	受講者の現場から見たキャリア教育の課題の共有
第 15 回	キャリア教育と夢	「夢」を手掛かりにした気キャリア教育の再考
第 16 回	メンバーシップ型雇用とキャリア教育	メンバーシップ型雇用と現状のキャリア教育の整合性の再考
第 17 回	大卒就職の現状	大学生の就職・採用活動の現状
第 18 回	大卒就職とキャリア教育	大卒就職の現状と課題に対応したキャリア教育とは
第 19 回	雇用形態の多様化の現状	雇用形態の多様化と困難を抱えた若者の課題
第 20 回	雇用形態の多様化とキャリア教育	卒業後を見据えたキャリア教育とは
第 21 回	女性のキャリアの現状	女性のキャリア展望とキャリアの現在

第 22 回	女性のキャリアの課題	女性のキャリアの課題とキャリア教育
第 23 回	職業教育とキャリア教育	職業教育とキャリア教育の関係
第 24 回	職業教育再考	ジョブ型雇用と職業教育
第 25 回	キャリア教育と望ましい人間像	「生きる力」とキャリア教育
第 26 回	キャリア教育と「自立」	「自立」を問い合わせる
第 27 回	総合的なキャリア教育・キャリア支援	キャリア教育・キャリア支援の担い手と取り組むべき課題
第 28 回	キャリア教育再考	授業全体を振り返り、みずからの考察を文章化して発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題文献を読み、データの出典を確認し、データの適切な利用を検討する。レジュメや論説文、レポートの作成を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

各回のテーマにかかる文献は授業の中で指定・紹介する。さしあたり以下を挙げておく。

- ・井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成術 第2版』慶應義塾大学出版会
- ・木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫
- ・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016）『質的調査の方法 他者の合理性の理解社会学』有斐閣
- ・児美川孝一郎（2013）『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす』中公新書ラクレ
- ・本田由紀（2009）『教育の職業的意義－若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書
- ・本田由紀（2020）『教育は何を評価してきたのか』岩波新書
- ・湯浅誠（2008）『反貧困』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

出席と討論への参加：20 %（積極性と共に討論内容に沿った的確性を評価する）／レジュメの作成と論点提示：30 %（的確な整理と的確な論点提示を評価）／論説文・レポートの作成 50 %（文献の論旨の的確な把握、引用や記述のルールの順守、文章の明確さ、論理構成の的確さを評価）

【学生の意見等からの気づき】

「自分の従来の見方が覆され視野が広がった」「レポートの添削がありがたかった」「大学院で学ぶ意味を、スタンスや心構えも含めて学ばせてもらいました」といった意見があった。現在の若者が置かれている状況と抱えている課題から各自がキャリア教育を問い合わせる機会をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイム・オンラインの方式により実施する可能性があるため、対応する通信環境を整えておくこと。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞労働雇用問題、キャリア教育、社会政策、職業能力開発

＜研究テーマ＞学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それにつながる支援の在り方

＜主要研究業績＞

- ・『大学のキャリア支援』（編著、経営書院、2007 年）
- ・「なにが早期離職をもたらすのか」上西充子・川喜多喬編『就職活動から一人前の組織人まで』（同友館、2010 年）
- ・『アルバイト就職トラブル Q & A』（石田真・浅倉むつ子・上西充子）（旬報社、2017 年 3 月）
- ・「職業安定法改正による求人トラブル対策と今後の課題－法改正に至る経緯を踏まえて－」『季刊・労働者の権利』Vol.324（2018 年 2 月）
- ・『呪いの言葉の解きかた』（晶文社、2019 年）
- ・「働き方改革の国会審議を振り返って－『多用な働き方』の言葉に隠された争点』（横田伸子・脇田滋・和田肇『「働き方改革」の達成と限界－日本と韓国の軌跡をみつめて』第 I 部第 2 章、関西学院大学出版会、2021 年）

【Outline and objectives】

Amid emerging social problems young people face during the difficult transition from school to work, and the appalling ways in which young employees are often treated in the workplace, the purpose and ideal form of career education have to be reexamined.

In this class, we will study career education policy in light of contemporary social situations confronting young people, and we will take a step back as we question the essential purposes and functions of career education and career support.

教育社会学

筒井 美紀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」を「社会学する」とはどういう動作をすることなのか？ このクラスでは、その基礎を徹底的にマスターする。

【到達目標】

ゴールは 3 つ。第 1 に、「私は教育社会学します I do the sociology of education.」と言えるようになること。すなわち、教育に関するさまざまな「常識」を問い合わせ、「ツッコミ」を入れ、深く調べ尽くし、それを論理性・説得力を持たせて言語化するという一連の動作ができるようになること。第 2 に、学術論文が如何に組み立てられているのか、それを頭と身体で習得すること。第 3 に、歪み・軋みが生じ大変な事態にある日本社会の、教育・福祉・労働をはじめとしたさまざまな領域を、一体どのように再創造していくべきだらうか？ について脳ミソを絞り、自分自身のスタンスを確立する。具体的には、「しんどい」高校における教育実践、自治体と地域の就労支援に関する文献講読と議論を行なう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

・第 1 回は、zoom によるリアルタイム授業で実施します。zoom URL は「学習支援システム」に記載。第 1 回授業にて、第 2 回以降の進め方(対面 or zoom)にに関して話し合って決定します（履修者数と教室容量、通勤の都合や基礎疾患など考慮）。

【授業の進め方：到達目標との関連】

第 1 のゴールについては、まずは筒井（2015, 2020）によって「大学院で学び研究する」動作に入るウォーミングアップをする。第 2・第 3 のゴールについては、伊藤（2009）をはじめ、教育社会学、教育学、社会政策学の論文を読み込んでいく。毎回全員が予習として「要約」と「コメント」を書いて学習支援システムに提出のうえ、オンラインの「授業に参加」する。毎回発表当番 2 人制とし、議論する。学生同士で議論したあと、教員が最後にフィードバックする。レジュメはコメントを入れて返却する。

★詳細については学習支援システム掲載の文書を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「他己」紹介／このクラスの進み方／発表当番決め
2	学術論文とは何か	「学術論文 7 つの構成要素」（筒井オリジナル）を理解する
3	筒井（2015, 2020b）	社会人学生が陥りやすい落とし穴を自覚する。社会科学の礎石的概念を知る
4	支援の逆説性（奥田知志）	「支援」と「教育」は違うのか
5	伊藤（2009）の要約	要約を通した「学術論文 7 つの構成要素」の習得
6	伊藤（2009）の議論	質的研究のイメージをつかむ
7	吉田（2007）の要約	要約を通した「学術論文 7 つの構成要素」の徹底
8	吉田（2007）の議論	依拠する理論的枠組みは何か
9	矢野（2016:1-15）①	マスコミの教育論議から「社会的必要」の視点へ
10	矢野（2016:1-15）②	精神論・制度論・資源論
11	筒井（2020a）の議論①	学校教育の社会政策学的位置づけ
12	筒井（2020a）の議論②	社会的投資アプローチの批判的検討
13	黒川（2018）の議論①	本書の面白さは何だと捉えたか
14	黒川（2018）の議論②	本書が学術研究たるには何が足りないか
15	黒川（2018）をふまえたワーク①	自分に欠けた知識の自覚とそのカバー
16	黒川（2018）をふまえたワーク②	記述の年表化と「知見」の分脈化
17	黒川（2018）をふまえたワーク③	知見を得ながら問い合わせを洗練する
18	黒川（2018）をふまえたワーク④	問い合わせを洗練し解明の重要性を深化させる
19	筒井（2016）の要約	歴史的（近過去）研究のイメージをつかむ
20	筒井（2016）の議論	近過去から現在を文脈化する
21	筒井（2016）の草稿を読んでの課題	論文は一筆書きでは書けないことを理解する

22 筒井（2016）の草稿を読む 読者コメントの活かし方を学ぶ
での議論

- 23 Gert Biesta（2010）① 「測定」と「教育の学習化」
- 24 Gert Biesta（2010）② 資格化、社会化、主体化
- 25 卒論構想発表の予行演習 <学術論文 7 つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表
- 26 卒論構想発表の予行演習 <学術論文 7 つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表
- 27 卒論構想発表の予行演習 <学術論文 7 つの構成要素> の①～⑤に沿って書いて発表
- 28 卒論構想発表の予行演習 <学術論文 7 つの構成要素> の④に沿って書いて発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回全員が、要約 and/or コメントを書く、あるいは課題をやって学習支援システムの「掲示板」に表示された各回の箇所に提出すること。

25～28 は卒論構想発表。現時点で持てる材料でよいから、挑戦してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・ Biesta, Gert(2010=2016)「教育は何のためにあるのか？」『よい教育とは何か』第 1 章 (pp.23-45) 白澤社
- ・ 伊藤秀樹 2009「不登校経験者への登校支援とその課題」『教育社会学研究』第 84 集 : pp.207-225.
- ・ 黒川祥子（2018）『県立！ 再チャレンジ高校』講談社現代新書
- ・ 筒井美紀（2016）『大阪府における地域雇用政策の生成に関する歴史的文脈の分析——就労困難者支援の体系化に対する総評労働運動の影響——』『日本労働社会学会年報』第 27 号 pp.107-131.
- ・ 筒井美紀（2020a）「[つながり] を創る学校の機能－『人的資本アプローチ』と『地域内蔵アプローチ』』『社会政策』12(1), pp.55-67.
- ・ 筒井美紀（2020b）「暗黙知化されている社会科学の概念的礎石についての解説」『生涯学習とキャリアデザイン』18(1): 31-34.
- * その他の文献含む全文献は学習支援システム「教材」にアップ済み。

【参考書】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

- ・ 予習課題の出来具合： 40 % (未提出の場合は減点)
- ・ 報告当番： 20 % (社会学的思考・社会学の諸概念の理解とコメントの質)
- ・ 平常点： 30 % (発言：質…社会学的思考、社会学の諸概念の理解)
- ・ 卒論構想発表： 10 %

【学生の意見等からの気づき】

上記の予習は多少しんどいかと思いますが、簡単なコメントを入れてできるだけ早く返却できりようと努めます。

【その他の重要事項】

「知識や理論を増やして、あとはそれを応用すれば調査ができ論文が書ける」という、多くの大学生が陥る誤解の拭拭に、まず全力を注ぎます。そのため「書いては議論し、議論しては書く」ことを重視しています。かくして、授業は極めて実践的です。

【担当教員の専攻分野等】

- <専門領域> 教育社会学、労働社会学
- <研究テーマ> 自治体や国、N P O の就労支援、学校から職業への移行、労働教育
- <主要研究業績>
 - ・ 筒井美紀（2021 近刊）「加賀ワークチャレンジ事業（加賀 WCP）の概要と分析枠組み」『社会政策』13(1) 小特集
 - ・ 筒井美紀（2020a）「[つながり] を創る学校の機能－『人的資本アプローチ』と『地域内蔵アプローチ』』『社会政策』12(1), pp.55-67.
 - ・ 筒井美紀（2018）「新規高卒採用に関する企業の認知と行為－一定点観測的インタビューの分析から」JILPT 編『新規高卒就職の現在』
 - ・ 筒井美紀（2017）「『変容する産業・労働と教育の結びつき』へのアプローチ」『教育社会学のフロンティア 1 学問としての展望と課題』日本教育社会学会編／本田由紀・中村高康責任編集、岩波書店, pp.275-294.
 - ・ 筒井美紀（2016）『殻を突き破るキャリアデザイン－就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣
 - ・ 筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い合わせ－自治体と地域の取り組み』勁草書房
 - ・ 遠藤公嗣・筒井美紀・山崎憲（2012）『仕事と暮らしを取りもどす－社会正義のアメリカ』岩波書店。（第 2 & 3 章執筆）
 - ・ 本田由紀・筒井美紀編著（2009）『仕事と若者』、日本図書センター。
 - ・ J. フィッツジェラルド著、筒井・阿部・居郷訳（2008）『キャリアラダーとは何か』勁草書房。

【Outline and objectives】

What does it to mean "do the sociology of education"? In this class the students are to master the basic skills of the sociology of education.

EDU500M1 - 1305

生涯学習論

久井 英輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(授業の概要)

この授業では、ノンフォーマル教育の概念、具体的な事例に関する知識と国際比較に必要な視点について、文献講読とディスカッションを通じて検討する。

(授業の意義と目的)

ノンフォーマル教育の概念や事例に関する理解を通じて、日本において「社会教育」「生涯学習」と名指される様々な取り組みの特性を把握し、国際的な広い視野から捉える力を養うことを目的とする。

【到達目標】

ノンフォーマル教育に関する概念の歴史的な展開とその構造に関する理解、ノンフォーマル教育に関連する多様な取り組みの事例についての知識、ノンフォーマル教育の取り組みの国際比較（特に日本の事例と他国の事例をどう比較するか）に必要な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最初数回のガイダンス的な授業以外は、文献講読とそれを踏まえたディスカッションとする。それぞれの文献について、発表を担当する受講者は、要約とコメント（ディスカッションに資する論点の提示）を中心としたレジュメを作成することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容説明と問題関心の共有	授業の進め方の詳細について説明するとともに、生涯学習に関する教員、受講者の問題関心を共有する。
第 2 回	ノンフォーマル教育概念の理解	ノンフォーマル教育の概念規定を行った基本的な文献とその性格について解説する。
第 3 回	ノンフォーマル教育の国際比較①	ノンフォーマル教育の概念規定をめぐる近年の議論について、文献講読を基に検討する。
第 4 回	ノンフォーマル教育の国際比較②	ノンフォーマル教育の多様性を論ずるための参照軸について、文献講読を基に検討する。
第 5 回	ノンフォーマル教育の国際比較③	ノンフォーマル教育とフォーマル教育（学校教育）の関係性について、文献講読を基に検討する。
第 6 回	ノンフォーマル教育の国際比較④	学校教育を代替するノンフォーマル教育の事例について、文献講読を基に検討する。
第 7 回	ノンフォーマル教育の国際比較⑤	発展途上国での識字に関わるノンフォーマル教育の事例について、文献講読を基に検討する。
第 8 回	ノンフォーマル教育の国際比較⑥	ノンフォーマル教育の観点から見たホームスクーリングの事例について、文献講読を基に検討する。
第 9 回	ノンフォーマル教育の国際比較⑦	ノンフォーマル教育の観点から見た民族、宗教的マイノリティの学校について、文献講読を基に検討する。

第 10 回 ノンフォーマル教育の国際比較⑧
ノンフォーマル教育に対する評価のあり方について、文献講読を基に検討する。

第 11 回 ノンフォーマル教育の国際比較⑨
ノンフォーマル教育と社会福祉との関連について、文献講読を基に検討する。

第 12 回 ノンフォーマル教育の国際比較⑩
ジェンダー・性の多様性に関するノンフォーマル教育の取り組みについて、文献講読を基に検討する。

第 13 回 ノンフォーマル教育の国際比較⑪
生活改善をめぐるノンフォーマル教育の取り組みについて、文献講読を基に検討する。

第 14 回 ノンフォーマル教育の国際比較⑫
これまでの文献講読をふまえ、ノンフォーマル教育の国際比較に必要な視点について検討する。

第 15 回 日本における社会教育行政
日本の社会教育行政の概要について、文献講読を基に検討する。

第 16 回 日本における民間の社会教育の展開
日本における民間の社会教育事業の展開について、文献講読を基に検討する。

第 17 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本①
日本における社会教育と学校教育の関係を、文献講読を基に検討する。

第 18 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本②
日本に住む外国人の生徒・児童を対象としたノンフォーマル教育の取り組みを、文献講読を基に検討する。

第 19 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本③
日本における同和教育の展開を、文献講読を基に検討する。

第 20 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本④
日本における学童保育の展開を、文献講読を基に検討する。

第 21 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本⑤
日本の学校における部活動の展開を、文献講読を基に検討する。

第 22 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本⑥
不登校の生徒・児童を対象としたノンフォーマル教育の取り組みを、文献講読を基に検討する。

第 23 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本⑦
日本に住む外国人の生徒・児童対象をめぐる学校教育とノンフォーマル教育の関係の変化を、文献講読を基に検討する。

第 24 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本⑧
日本における大学生・大卒者の就職を視野に入れた学習活動について、文献講読を基に検討する。

第 25 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本⑨
日本における地域に根ざした社会教育施設としての公民館の活動について、文献講読を基に検討する。

第 26 回 ノンフォーマル教育の視点から見た日本⑩
ノンフォーマル教育における高齢者の学びについて、文献講読を基に検討する。

第 27 回 ノンフォーマル教育概念の再検討
ノンフォーマル教育の概念の有効性について、文献講読を基に検討する。

第 28 回 授業の振り返り
これまでの文献講読の内容に基づいて各受講者が論点を提示し、それを基に討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各回の授業の前に課題の講読文献を予め読んでおくこと。
- 各回の文献発表担当者は、丁寧な要約と、ディスカッションの論点となるコメントを用意すること
- 各回の授業後、討論の内容と前回までの文献との関係を踏まえつつ、文献をもう一度読み直すこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- Okano, K.H. eds. Nonformal Education and Civil Society in Japan, Oxon/New York: Routledge, 2016
Hideki, Maruyama, eds. Cross-Bordering Dynamics in Education and Lifelong Learning: A Perspective from Non-Formal Education, Abindon: Routledge, 2020.

これ以外にも、講読文献は多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

文献講読発表 50 %
討論への貢献度 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline and objectives】

This course examines the concept of “non-formal education,” knowledge on various cases of non-formal education, and viewpoints for international comparison by text reading, presentation, and discussion.

This course aims to help students acquire ability to grasp the characteristics of various activities of social education and lifelong learning in Japan from the viewpoint of “non-formal education”, and ability to understand these activities from the viewpoint of international comparison.

MAN500M1 - 1401

キャリア開発論

武石 恵美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえることができるようになるとともに、キャリア開発にかかる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。

【到達目標】

授業の到達目標は以下のとおり。
 ・個人のビジネスキャリア開発が企業の人事管理はもとより社会の構造と関連していることについての視点をもつ。
 ・ビジネスキャリア開発の背景にある社会構造について理解する。
 ・関連する文献、論文の講読を通じて、自身の問題意識を明確にし、それを主張することができる。
 ・研究テーマに対してどのように研究を進めればよいのか、研究方法論について一定の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、下記の大テーマに関連して、理論等の概説や問題提起を中心とする講義、質質疑、ディスカッションにより進めます。ただし、授業内容は、受講者の状況に応じて変更することがあります。

- (1) キャリア開発に関する基礎
- (2) キャリア開発の変化の動向
- (3) 個人が進めるキャリア開発
- (4) キャリア開発を支援する組織、社会

課題等の提出は「学習支援システム」を通じてを行い、フィードバックは個別に行うとともに、共有すべき内容は授業において行う予定です。

なお、第1回はオンラインでの開催となります。その後の授業実施形態は、受講状況（受講者数や受講者の希望等）により決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の説明、受講者の問題意識についてのディスカッション。
2回	キャリア開発概論	キャリア開発についての概論。
3回	キャリア開発をとらえる視点	キャリア開発をとらえる視点について。
4回	キャリア開発にかかる理論的な枠組み	キャリア開発を議論するうえで重要な理論的な枠組みについて。
5回	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体について。
6回	人材育成との違い	キャリア開発と人材育成との視点の違いについて。
7回	経済環境の変化とキャリア自律	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発、キャリア形成のモデルやそのあたりがどのように変化したのか、縦断的な視点からのアプローチを行う。
8回	経済環境の変化とキャリア自律（文献講読等）	社会構造の時系列的な変化の中で、キャリア開発がどのように変化したのかについて、文献をもとにディスカッションをする。
9回	ダイバーシティ経営	人材の多様性を生かすダイバーシティ経営について事例を含めて検討する。
10回	ダイバーシティ経営（文献講読等）	人材の多様性を生かすダイバーシティ経営について、文献をもとにディスカッションをする。
11回	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、課題について「多元化」の切り口から考察する。
12回	正社員の多元化とキャリア開発（文献講読等）	正社員の働き方の現状、課題について、文献をもとにディスカッションをする。
13回	ワーク・ライフ・バランス、働き方改革	ワーク・ライフ・バランス政策、企業が行う働き方改革について理解する。
14回	ワーク・ライフ・バランス、働き方改革（文献講読等）	ワーク・ライフ・バランス政策、企業が行う働き方改革について、文献をもとにディスカッションをする。
15回	女性のキャリア開発	ジェンダーの視点から男女の雇用格差の実態を把握し、女性のキャリア開発の課題を検討する。

16回	女性のキャリア開発（文献講読等）	女性のキャリア開発の課題について、文献をもとにディスカッションをする。育児と仕事の両立、育児期の女のキャリア開発について検討する。
17回	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の女のキャリア開発について検討する。
18回	育児期のキャリア開発（文献講読等）	育児と仕事の両立、育児期の女のキャリア開発について、文献をもとにディスカッションをする。
19回	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立のあり方について検討する。
20回	介護責任とキャリア開発（文献講読等）	介護と仕事の両立のあり方について、文献をもとにディスカッションをする。
21回	再就職者のキャリア開発	女性のライフコースとキャリアを理解するうえで重要な再就職をめぐる現状と課題について検討する。
22回	再就職者のキャリア開発（文献講読等）	再就職をめぐる現状と課題について、文献をもとにディスカッションをする。
23回	非正規雇用とキャリア	パート・派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題について検討する。
24回	非正規雇用とキャリア（文献講読等）	パート・派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題について文献をもとにディスカッションをする。
25回	高齢期のキャリア	高齢期のキャリア開発の現状と課題について検討する。
26回	高齢期のキャリア（文献講読等）	高齢期のキャリア開発の現状と課題について文献をもとにディスカッションをする。
27回	総括	授業の振り返り
28回	総括	授業のまとめ、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、文献講読の課題が出てレジュメの作成を求ることになります。また、2回のレポート課題を予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、武石恵美子（2016）『キャリア開発論－自律性と多様性に向かう』中央経済社、を使用します。このほかに関連する文献を講読します。講読する文献は授業で具体的に指定します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 70%：ディスカッションへの参加も含む
- レポート 30%：レポート内容を評価。未提出や期限を過ぎての提出があれば不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

修士論文の課題設定や執筆のための視点の提供をしていくとともに、受講者からのプレゼンテーションや話題提供をベースにしたディスカッションを積極的に取り入れています。

また、課題のレポートはコメントを付けて返却し、それをもとに論文の書き方についての解説も加えます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>人的資源管理論、女性労働論

<研究テーマ>働き方の多様化、ダイバーシティ経営、女性のキャリア形成

<主要研究業績>

- ①『シリーズダイバーシティ経営 女性のキャリア支援』（共編著）、中央経済社、2020年。
- ②『ダイバーシティ経営と人材活用』（共編著）、東京大学出版会、2017年。
- ③『キャリア開発論』、中央経済社、2016年。
- ④『ワーク・ライフ・バランス支援の課題』（共編著）、東京大学出版会、2014年。
- ⑤『国際比較の視点から日本のワーク・ライフ・バランスを考える』（編著）、ミネルヴァ書房、2012年。
- ⑥『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』（共編著）、勁草書房、2011年。
- ⑦『職場のワーク・ライフ・バランス』（共著）日本経済新聞出版社、2010年。
- ⑧『叢書働くということ 第7巻 女性の働きかた』（共編著）、ミネルヴァ書房、2009年。
- ⑨『人を活かす企業が伸びる－人事戦略としてのワーク・ライフ・バランス』（共編著）勁草書房、2008年。
- ⑩『雇用システムと女性のキャリア』勁草書房、2006年。

【Outline and objectives】

This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will examine how a personal business carrier is developed in the relation with social structure and the employment system. In addition, they will understand a theoretical frame about career development and learn a viewpoint, methodology to approach the current situation of the career development.

MAN500M1 - 1402

人的資源管理論**藤本 真****実務教員：****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済・社会活動がグローバル化するなかでの競争の激化や、経済社会の成熟化により、日本企業は事業運営においてこれまでにない模索を強いられ、時に大きな事業革新を求められています。一方で、人口高齢化と人口減少の進行は、企業の人的資源の担い手を大きく変えつつあります。本授業では、以上のような状況のもとで、日本企業が進めている人的資源管理の取り組みとその背景、および取り組みがもたらす影響について理解し、今後のあり方について検討を行うための視点を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ① a. これから日本企業の人的資源管理において重要度が増すと考えられる課題、b. これまででも重要性は高かったが人的資源管理活動の可能性が十分に検討されてこなかった課題について、講義と演習における議論について通じて理解を深め、今後の人的資源管理活動のありようについて検討できるようになる。
- ② 日本企業が進めている（または今後進める可能性がある）人的資源管理において、企業、職場、個人が果たしている役割や、人事労務管理の進行により企業、職場、個人が受けける影響について、理解・検討できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 本授業は、オンライン授業（リアルタイム配信型）として、実施します。
2. 第1回から第6回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、日本企業における人的資源管理の基本的内容と変化のトレンドに関する講義を行います。
3. 第7回目以降は、日本企業の人的資源管理に関する個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」（6時限目）と「演習」（7時限目）を行ないます。
4. 「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
5. 「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行ないます。
6. 授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のどのようなものを考えています（「授業計画」には、担当者が2020年度の授業で取り上げたテーマと各テーマに対応するトピックを、授業で実施した順に記しています）。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第3回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。
＜取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外＞
- 人手不足社会における人の資源管理の役割
- 外国人の採用と育成・定着・キャリア管理
- 「上司」「マネージャー」の役割
- 人事評価の多様化とその課題
- 中小企業における人の資源管理
- 「働きがい」「働きやすさ」を高めるための取り組み
- 退職管理・定着管理
- 「社長」「経営幹部」のつくり方－日本版ファストトラックの現状と課題
- 2020年代の望ましい賃金制度とは？
- 「過労死」・「メンタルヘルス不全」を撲滅するには？
- 「感情労働」の増加と課題
- 「イノベーション創出」「両利きの経営」と人的資源管理
7. 授業期間中、人的資源管理の企画・立案に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本企業の人的資源管理における取り組みと今後に向けた模索について、より理解を深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/ Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/ No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第2回	イントロダクション	昨今の日本企業の人的資源管理をめぐるトピックの提起・検討
第3回	ガイダンス	参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討
第4回	日本企業の人的資源管理・基礎①「日本企業の人的資源管理における基礎的特徴」	日本企業の人的資源管理・基礎①－採用、配置、キャリア管理、報酬管理における基本的特徴

第 5 回	日本企業の人的資源管理・基礎②「日本企業の人的資源管理の成り立ち・変容とこれから」	経営家族主義、職工同一化、生計費保障の思想、「長期安定雇用」の規範化、能力主義管理、複線型管理、成果主義賃金、少子高齢化とグローバル化の中での取り組み	第 23 回	日本企業の人的資源管理における課題⑨「多様な雇用・就業形態のマネジメント」	「柔軟な企業」モデル、雇用ポートフォリオ、非正規労働者のキャリア形成、正社員転換制度、無期転換ルール、就職氷河期世代、「派遣切り」、同一労働・同一賃金、新型コロナと非正規社員・派遣社員
第 6 回	日本企業の人的資源管理・基礎②「日本企業の人的資源管理の成り立ち・変容とこれから」	日本企業の人的資源管理のこれまでを踏まえた、今後のあり方についての議論・検討を行う	第 24 回	日本企業の人的資源管理における課題⑨「多様な雇用・就業形態のマネジメント」	正社員以外の多様な雇用・就業形態をめぐる人的資源管理の現状と課題について、問題提起と議論・検討を行う
第 7 回	日本企業の人的資源管理における課題①「日本企業の人材確保（make/buy/borrow）と「ジョブ型」「キャリア自律」」	新卒一括採用、中途採用（経験者採用）、小池和男の「熟練」「キャリア」概念、職務給／職能資格給、年功賃金、ジョブ型雇用／メンバーシップ型雇用、エンプロイイヤビリティ、キャリア自律・自律型キャリア	第 25 回	日本企業の人的資源管理における課題⑩「多様な就業のあり方と人的資源管理～マルチブル・ジョブの活用とテレワークを題材に～」	テレワーク、フリー・アドレス、副業／兼業／複業、副業と就業時間管理、個人請負／フリーランス、雇用類似の働き方、クラウド・ワーク
第 8 回	日本企業の人的資源管理における課題①「日本企業の人材確保（make/buy/borrow）と「ジョブ型」「キャリア自律」」	日本企業の人材確保のあり方・キャリア自律に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	第 26 回	日本企業の人的資源管理における課題⑩「多様な就業のあり方と人的資源管理～マルチブル・ジョブの活用とテレワークを題材に～」	マルチブル・ジョブやテレワークの活用などこれまでとは異なる就業のあり方と、そうした就業をめぐる人的資源管理について、問題提起と議論・検討を行う
第 9 回	日本企業の人的資源管理における課題②「ミドル・シニア人材の新たな位置づけと人的資源管理」	中年の危機、キャリア・プラトー、越境学習、役職定年、出向・転籍、早期退職、セカンドキャリア支援、高齢者雇用安定法、定年制、雇用確保措置、長澤運輸事件、70歳までの就業継続ミドル・シニア人材を対象とする人的資源管理に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	第 27 回	日本企業の人的資源管理における課題⑪「人事部」の新たな役割～時代・世代と人的資源管理～	労務管理と人的資源管理、生産性／経営パフォーマンスと人事部、戦略的的人的資源管理、戦略的パートナーとしての人事部、人事部と現場（ライン）との関係、人事部スタッフの能力開発・キャリア形成、ミレニアル世代／Z世代、働きがい／働きやすさ
第 10 回	日本企業の人的資源管理における課題②「ミドル・シニア人材の新たな位置づけと人的資源管理」	ミドル・シニア人材を対象とする人的資源管理に関するトピックについて、問題提起と議論・検討を行う	第 28 回	日本企業の人的資源管理における課題⑫「人事部」の新たな役割～時代・世代と人的資源管理～	「人事部」に求められる新たな役割や、ミレニアル・Z世代を対象とする人的資源管理のあり方について、問題提起と議論・検討を行う
第 11 回	日本企業の人的資源管理における課題③「仕事と介護の両立」	介護保険制度、育児介護休業法、職場と介護休業、ワーク・ライフ・コンフリクト、介護ストレス／介護うつ、介護離職、働き方の見直し、短時間正社員、管理職の役割			
第 12 回	日本企業の人的資源管理における課題③「仕事と介護の両立」	仕事と介護の両立に関わる人的資源管理の取り組みについて、問題提起と議論・検討を行う			
第 13 回	日本企業の人的資源管理における課題④「人材活用の仕組みとして新たな取り組みの実践」	ゲストスピーカー（社会保険労務士）による講演			
第 14 回	日本企業の人的資源管理における課題④「人材活用の仕組みとして新たな取り組みの実践」	ゲストスピーカーの取り組み内容について、議論・検討を行う			
第 15 回	日本企業の人的資源管理における課題⑤「タレント・マネジメント」の新たな展開	タレント・マネジメント、エンゲージメント、コミットメント、ウォー・フォー・タレント、サクセッション・プラン、適者生存／適者開発、グローバル・タレント・マネジメント、グローバル人材／高度外国人人材			
第 16 回	日本企業の人的資源管理における課題⑤「タレント・マネジメント」の新たな展開	タレント・マネジメントの現状について、問題提起と議論・検討を行う			
第 17 回	日本企業の人的資源管理における課題⑥「プロフェッショナル型人材」をめぐる人的資源管理の課題	文系プロフェッショナル、資格取得と専門職としてのキャリア、社会人大学院／専門職大学院、企業内プロフェッショナル、高度プロフェッショナル制度、副業・兼業容認、役割給／職責給「プロフェッショナル型人材」の育成・確保、待遇をめぐる取り組みについて、問題提起と議論・検討を行う			
第 18 回	日本企業の人的資源管理における課題⑥「プロフェッショナル型人材」をめぐる人的資源管理の課題	遅い昇進／長期の競争、人事権、異動の範囲、転勤とキャリア形成、ファスト・トラック、キャリア形成支援／キャリア・カウンセリング、キャリア再起、「妊活」支援			
第 19 回	日本企業の人的資源管理における課題⑦「能力開発・キャリア形成と人的資源管理」	個人のキャリア形成への組織によるコミットメントのあり方について、問題提起と議論・検討を行う			
第 20 回	日本企業の人的資源管理における課題⑦「能力開発・キャリア形成と人的資源管理」	ダイバーシティ・マネジメント、性別職域分離、統計的の差別、アファーマティビティ・アクション、LGBT、ダイバーシティ・インクルージョン			
第 21 回	日本企業の人的資源管理における課題⑧「人材の多様化とダイバーシティ・マネジメント」	人材の多様性を活かすためのマネジメントと課題について、問題提起と議論・検討を行う			
第 22 回	日本企業の人的資源管理における課題⑧「人材の多様化とダイバーシティ・マネジメント」				

- 藤本真編著 [2014]『日本企業における能力開発・キャリア形成—既存調査研究のサーベイと試行的分析による研究課題の検討』、労働政策研究・研修機構。
- 労働政策研究・研修機構編 [2017]『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』、労働政策研究・研修機構。
- 梅崎修・池田心豪・藤本真編著 [2019]『労働・職場調査ガイドブック』、中央経済社。
- (論文)

- 藤本真 [2011]「60歳以降の勤続をめぐる実態—企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」、日本労働研究雑誌 616号。
- 藤本真 [2018]「[キャリア自律]はどんな企業で進められるのか」、日本労働研究雑誌 691号。
- 松永伸太朗・梅崎修・藤本真・池田心豪・西村純・秋谷直矩 [2020]「ノンテリトリアル・オフィスの空間設計と身体作法—流動的再場所化による創造的チームワークの達成」、日本労働研究雑誌 720号。

【Outline and objectives】

As the economic and social activities become globalized, Japanese companies are forced to seek new business management. They sometimes must carry out big reforms in business and organizations. On the other hand, the aging of the population and the progress of the population decrease in Japan are changing the players of corporate human resources dramatically. In this circumstances, human resource management in Japanese companies are changing.

In this class, we first try to understand the contents and backgrounds of new human resource management efforts in Japanese companies. And then we discuss and understand the roles played by companies, workplaces and individuals in human resources management and the influence for companies, workplaces, and individuals. The final goal is for attendees to conceive and realize the better future of human resources management in Japan.

MAN500M1 - 1403

経営組織マネジメント論

木村 琢磨

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※授業の進め方を一部変更しました。詳細は学習支援システムをご覧ください。変更内容のシラバスへの反映は随時行なっていますので、当面は学習支援システムの連絡事項を読んでください。

本講義では、企業組織のマネジメントに関する基礎的な理論を学び、議論することによって、人材のマネジメント、キャリア開発について企業経営の視点から実証研究を行うための、基礎的な理論的知識・思考力を養うこと目標とします。

「経営組織」は、人がビジネスキャリアを歩む場であり、組織の内部の状況は、そこで働く人のビジネスキャリアに大きな影響を与えます。そのため、人材を育成しようとする企業、および成長しようとする個人にとっては、「経営組織」がどのような場であるかを理解することが重要です。

「経営組織」は、組織として定めた方針・戦略・計画や、職務権限・指揮命令系統にしたがって人材を活用し、育成し、業務を遂行すると考えられています。しかし、経営組織は感情を持つ人間の集団であるために、必ずしも公式の指示・命令や経済的合理性にしたがって動くとは限らず、多くの非公式な活動を伴って動いているのが現実です。本講義では、経営学における主たる分野の1つである組織行動論の理論・概念に焦点を当てて議論します。

【到達目標】

・組織行動論の理論について、古典的研究から最近の研究までの、基礎的学説・理論を理解し、研究の流れを説明することができる。

・組織行動論の知見に基づき、現実の経営組織の諸問題を考察することができる。

・組織行動論の理論や概念に基づいて組織および組織内の個人・集団に関わる現象を分析・説明し、3,000字程度の小論文にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

土曜日の1・2限で14週（計28回）に行ないます。実施形態は下記の通りです。

・1限：テキストの内容に関する質疑・ディスカッション

・2限：受講生の研究課題と関連させた質疑・ディスカッション

フィードバックは各回とも提出されたレポートに基づき授業内で解説する形で行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要と目的、到達目標、学習方法
第2回	学術研究の基礎	経営組織・組織行動に関する学術研究の基本的な考え方・方法
第3回	個人の行動の基礎（1）	価値観、態度
第4回	個人の行動の基礎（2）	認知、学習
第5回	パーソナリティと感情（1）	パーソナリティ
第6回	パーソナリティと感情（2）	感情
第7回	動機づけの基本的なコンセプト（1）	初期の動機づけ理論
第8回	動機づけの基本的なコンセプト（2）	現代の動機づけ理論
第9回	動機づけ：コンセプトから応用へ（1）	目標による管理、行動修正法、従業員認知プログラム、従業員の巻き込みプログラム
第10回	動機づけ：コンセプトから応用へ（2）	職務再設計と勤務形態の選択、変動給与制、能力給
第11回	個人の意思決定（1）	意思決定はどのように行われるか
第12回	個人の意思決定（2）	意思決定の実際、意思決定における倫理
第13回	集団行動の基礎（1）	集団の定義と分類、集団の基本的概念
第14回	集団行動の基礎（2）	集団の意思決定
第15回	チームを理解する（1）	チームが多用される理由、チームとグループの違い、チームのタイプ
第16回	チームを理解する（2）	チーム・ビルディング、チームプレイヤー
第17回	コミュニケーション（1）	コミュニケーションの機能・プロセス・方向
第18回	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因、異文化コミュニケーション

第 19 回 リーダーシップ（1）	リーダーシップの定義、特性理論、行動理論、条件適合理論
第 20 回 リーダーシップ（2）	カリスマ的リーダーシップ、信頼とリーダーシップ
第 21 回 パワーと政治（1）	パワーの定義、パワーの源泉、パワーと依存
第 22 回 パワーと政治（2）	連帶形成、社内政治
第 23 回 コンフリクトと交渉（1）	コンフリクトの定義と分類
第 24 回 コンフリクトと交渉（2）	コンフリクトのプロセス、交渉
第 25 回 論文講読：量的研究（1）	組織行動をテーマにした量的研究論文の理解
第 26 回 論文講読：量的研究（2）	量的研究論文の特徴と着眼点に関する議論
第 27 回 論文講読：質的研究（1）	組織行動をテーマにした質的研究論文の理解
第 28 回 論文講読：質的研究（2）	質的研究論文の特徴と着眼点に関する議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、テキストの該当章を事前に読んでくること
- ・疑問点・論点をいくつか考えて授業の前日までに授業支援システム上で提出すること
- ・上記2点の準備学習は3時間、授業後の復習時間は1時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

- ・スティーブン・P・ロビンズ著、高木晴夫訳（2009）『組織行動のマネジメント（新版）』ダイヤモンド社
- ・Doldor, E. (2017). from politically naive to politically mature: Conceptualizing leaders' political maturation journey. *British Journal of Management*, 28(4), 666-686.
- ・Perrewé, P. L., Zellaras, K. L., Ferris, G. R., Rossi, A. M., Kacmar, C. J., & Ralston, D. A. (2004). Neutralizing job stressors: Political skill as an antidote to the dysfunctional consequences of role conflict. *Academy of Management Journal*, 47(1), 141-152.

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

1. 討議への参加・貢献（50 %）
積極的に発言すること。そのうえで、以下のような発言を歓迎する。
・議論を活性化させる質問・問題提起
・理論に基づいた現実の論理的考察・整理
・それに基づいた施策の提言、新たな研究課題の提示
2. 論点提示（50 %）
担当章について十分に考察し、視点の広がりを持たせるような論点を提示すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学習した内容を定着させるため過去の回で扱った内容を授業内で適宜復習する。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキスト

【担当教員の専門分野等】

- <専門領域>
組織行動（organizational behavior）
<研究テーマ>
・組織内政治（社内政治： organizational politics）
・リーダーシップ（leadership）
<主要研究業績>
・How and when corporate social responsibility affects salespeople's organizational citizenship behaviors?: The moderating role of ethics and justice. *Corporate Social Responsibility and Environmental Management*, 2019, 26(3), 548-558.
・The roles of political skill and intrinsic motivation in performance prediction of adaptive selling. *Industrial Marketing Management*, 2019, 77, 198-208.
・Work overload and intimidation: The moderating role of resilience. *European Management Journal*, 2018, 36(6), 736-745.
・Ethical Leadership and Its Cultural and Institutional Context: An Empirical Study in Japan. *Journal of Business Ethics*, 2018, 151(3), 707-724.
・A Review of Political Skill: Current Research Trend and Directions for Future Research. *International Journal of Management Reviews*, 2015, 17(3), 312-332.

【Outline and objectives】

This course focuses on some of the essential topics in organizational behavior. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic approaches that can work as guides to implement human resource management.

MAN500M1 - 1404

人事組織経済学**梅崎 修**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学と言うと、市場の分析であると考える方も多いと思います。もちろん、労働市場の分析はキャリア研究にとって重要なテーマですが、それ以外に組織や人事制度に対しても経済学理論は有効な分析枠組みです。この授業では、まず人的資本、情報の非対称性、インセンティブ付与、などの理論・概念を学び、企業内人事データを用いて、実際の人事制度と企業組織を分析します。人事と組織の具体的な事例を知るだけでなく、それらを分析できる思考方法を身に付けることを目標としています。経済学の思考方法は、修士論文作成はもちろんのこと、実際のビジネス意思決定にも役立つでしょう。

【到達目標】

経済学の理論と分析ツールを使いこなすこと、具体的には、組織や人事制度の解釈をインセンティブ理論によって説明可能になることなどを目標とする。修士論文作成のために必要な計量分析とヒアリング分析の実証方法も、「分析結果を読める」ことはもちろんだが、「自分で分析できる」までになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人事経済学（Personnel Economics）と組織経済学（Economic Approaches to Organizations）の理論と分析事例を解説します。はじめに経済学理論と概念を解説した後に、具体的な企業事例を紹介し、参加者と議論します。理論解説 → 分析事例の紹介 → 議論という流れの中で、経済学思考方法を学びます。また、分析事例としてアンケート調査やヒアリング調査の分析結果を紹介しますが、その際、データの扱い方・読み方についても説明をします。なお、授業は2回連続で行い、半期で終了します。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックはを授業時間内とオフィスアワーを通じて行う予定です。また、対面での授業を考えておりますが、コロナの感染状況を踏まえ、受講生の基礎疾患等を考慮して実施形態を個別に検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学的思考とは？	経済学の入門説明。
第 2 回	論文の読み方、議論の仕方。	実証研究の読解ポイントを紹介する。
第 3 回	労働市場分析	労働市場の需給分析フレームワークの解説。
第 4 回	労働市場分析（事例）	労働市場、失業研究などを紹介し、議論する。
第 5 回	労働統計	労働関係の各種統計を解説。
第 6 回	労働統計（事例）	労働統計を使った論文を紹介し、議論する。
第 7 回	情報の経済学	情報の非対称性とシグナリング理論を解説。
第 8 回	情報の経済学（事例）	就職・転職などの実証研究を紹介し、議論する。
第 9 回	内部労働市場	取引費用の発生と内部労働市場論を解説。
第 10 回	内部労働市場（事例）	取引費用の発生と内部労働市場論の実証研究を紹介し、議論する。
第 11 回	人的資本	人的資本理論、企業特殊的熟練を解説。
第 12 回	人的資本（事例）	人的資本理論、企業特殊的熟練に関する実証研究を紹介し、議論する。
第 13 回	学校教育の効果	人的資本理論を基にしながらに教育の経済効果の解説。
第 14 回	学校教育の効果（事例）	教育の経済効果の実証研究を紹介し、議論する。
第 15 回	工場の技能形成	生産システム論と知的熟練論を解説。
第 16 回	工場の技能形成（事例）	生産システム論と知的熟練論の実証研究を紹介し、議論する。
第 17 回	オフィスの技能形成	ホワイトカラーの技能形成を解説。
第 18 回	オフィスの技能形成（事例）	ホワイトカラーの技能形成における実証研究を紹介し、議論する。
第 19 回	イノベーションと技能	能力構築競争の理論を解説
第 20 回	イノベーションと技能（事例）	能力構築競争の実証研究を紹介し、議論する。
第 21 回	インセンティブ設計	プリンシバル-エイジェントモデルを解説。
第 22 回	インセンティブ設計（事例）	プリンシバル-エイジェントモデルの実証論文を紹介し、議論する。

第 23 回 組織内競争	インセンティブ設計としての競争を解説。
第 24 回 組織内競争（事例）	キャリアツリー法などの分析を紹介し、議論する。
第 25 回 賃金制度	インセンティブ設計としての賃金制度を解説する。
第 26 回 賃金制度（事例）	能力給・成果給などの賃金制度の分析事例を紹介し、議論する。
第 27 回 評価者負担と公平性	評価者負担の理論を解説。評価分布分析を紹介。
第 28 回 評価者負担と公平性（事例）	評価分布の分析事例を紹介し、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習として、学部レベルの教科書（該当部分）と関連論文 1 本を読んでもらいます。学部レベル教科書の予習は理論の解説の事前準備になりますし、関連論文の予習は受講生とのディスカッションの前提となります。本授業の準備学習・復習時間は、各 4~5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使わずに、レジュメを配布しながら解説します。ただし、講義前に参考文献を読んでもらいます。

【参考書】

参考文献

- 小池利男（2005）『仕事の経済学』（東洋経済新報社）
- 松繁寿和（2008）『労働経済』（放送大学教育振興会）
- ラジマー（2000）『人事と組織の経済学』（樋口・清家訳：日本経済新聞社）(Lazear, E. " Personnel Economics for Managers" John Wiley & Sons Inc)
- 学部向け教科書ですが、以下の本はデータが豊富で役立ちます。
- 松繁寿和・阿部正浩編（2010）『キャリアのみかた』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）・・・議論への参加を評価します。
レポート課題（50 %）・・・議論を発展させたレポート課題を提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

経済学理論の紹介に関しては、基礎的文献や教科書を紹介して理解を深めるようにします。

【担当教員の専門分野等】

労働経済学、教育経済学、人事組織経済学
共編著『労働職場調査ガイドブック－多様な手法で探索する働く人たちの世界』（中央経済社,2019）
共編著『大学生の内定獲得－就活支援・家族・きょうだい・地元をめぐって』（法政大学出版局,2019）
共編著『学生と企業のマッチング－データによる探索』（法政大学出版局,2019）

【Outline and objectives】

This course will overview major topics in personnel and organizational economics including human capital theory, asymmetric information, and the provision of incentives. The course also explains empirical strategies and techniques using personnel records from within the firm. This course aims to encourage broader ways of thinking and practicing. This attitude is useful not only for writing Master's theses, but also for making decisions in business situations.

MAN500M1 - 1405

職業キャリア政策論

松浦 民恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「職業キャリア」を軸として、職業の位置づけや職業観とその背景にある社会構造を、歴史的・国際的な観点から理解し、その上で現状について改めて考えます。また、職業能力開発支援政策・職業と人材のマッチング政策の背景・現状について学び、課題やあるべき方向性について考えます。途中で事例紹介のための資料、課題レポートを提出頂き、授業のなかでの発表・ディスカッション・講評（講評はレポートについて）を予定しています。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①職業の位置づけや職業観について、社会構造と関連づけて理解することができる。
- ②職業キャリアに関わる国や企業の政策の現状や課題を理解し、複眼的な視点で考察することができる。
- ③修士論文の作成に向けて、的確な課題設定・仮説提示や、説得的な論旨の展開ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、講義形式（問題提起や概説）だけでなく、輪読やディスカッションを中心とする参画型の形式も取り入れます。輪読については、事前に指定した文献・論文について担当の受講者から報告頂き、全員でディスカッションを行います。また、①勤務先等の事例をご紹介いただく回、②統一テーマ「企業・団体における人材育成（仮）」のなかで自分なりの個別テーマを立てて執筆頂いたレポートをご報告頂く回、も設ける予定です。授業は 14 週（2 限続きで合計 28 回）で実施します。

初回授業は対面で実施予定です。その後の実施形態については、対面の回、オンラインの回を織り交ぜる可能性が高いです（対面とオンラインを併用することは予定しておりません）。初回授業で、受講生と相談・合意のうえ、計 14 日（28 回）の実施形態を決定したいと思います。

なお、受講の状況等によっては、授業計画を一部変更する場合がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明（文献・論文の指定とレジュメ作成の分担、課題レポートのテーマ等） ②受講者の現時点での問題意識の共有 職業の定義や日本における職業の位置づけに関する概説
第 2 回	職業とは	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷に関する概説
第 3 回	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（1）	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷に関する概説
第 4 回	職業とそれを取り巻く社会環境の変遷（2）	職業の変遷と今後の変化に関するディスカッション
第 5 回	職業観・職業倫理と組織（1）	職業観・職業倫理と組織に関する概説
第 6 回	職業観・職業倫理と組織（2）	職業観・職業倫理に関する事例紹介とディスカッション
第 7 回	日本の雇用システムのもとでの職業キャリア（1）	日本の雇用システムのもとでの職業キャリアに関する概説
第 8 回	日本の雇用システムのもとでの職業キャリア（2）	日本の雇用システムのもとでの職業キャリアに関する指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 9 回	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援（1）	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援に関する概説
第 10 回	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援（2）	職業能力評価・支援政策と企業における職業能力開発支援に関する指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 11 回	事例紹介～企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題（1）	企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題～民間企業（仮）
第 12 回	事例紹介～企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題（2）	企業・団体における職業能力開発支援の現状と課題～団体（仮）
第 13 回	職業キャリア政策（1） 職業キャリアに関連する労働政策の潮流と決定メカニズム	職業キャリアに関連する労働政策の潮流と決定メカニズムに関する概説

第 14 回	職業キャリア政策（2） 同一労働同一賃金の議論の背景と課題	同一労働同一賃金の議論の背景と課題に関する概説
第 15 回	職業キャリア政策（3） 女性活躍推進政策の現状と課題	女性活躍推進政策の現状と課題に関する概説
第 16 回	職業キャリア政策（4） 女性活躍推進の現状と課題	女性活躍推進に関するディスカッション
第 17 回	職業キャリア政策（5） 労働時間規制の変遷	労働時間規制の変遷に関する概説
第 18 回	職業キャリア政策（6） 労働時間規制と働き方改革	労働時間規制と働き方改革に関するディスカッション
第 19 回	職業と人材のマッチング (1) 労働市場における職業と人材のミスマッチ	労働市場における職業と人材のミスマッチと、官民による人材サービスの現状に関する概説
第 20 回	職業と人材のマッチング (2) 官民による人材サービスの種類と役割	官民による人材サービスの現状や役割分担に関するディスカッション
第 21 回	職業と人材のマッチング (3) 職業紹介・求人広告の現状と課題	職業紹介・求人広告の現状と課題に関する概説
第 22 回	職業と人材のマッチング (4) 個人の職業キャリアと職業紹介・求人広告	職業紹介・求人広告に関するディスカッション
第 23 回	職業と人材のマッチング (5) 派遣規制の変遷	派遣規制の変遷に関する概説
第 24 回	職業と人材のマッチング (6) 派遣社員のキャリア形成	派遣社員のキャリア形成に関する指定文献・論文の輪読とディスカッション
第 25 回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（1）	課題レポートの報告と質疑・講評～民間企業・前半
第 26 回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（2）	課題レポートの報告と質疑・講評～民間企業・後半
第 27 回	統一テーマ（仮）企業における人材育成（3）	課題レポートの報告と質疑・講評～団体
第 28 回	授業の振り返り	授業の振り返り

【授業時間外の学習・準備学習・復習・宿題等】

指定した文献・論文については、受講者全員が事前に読んだ上でご出席下さい。また、指定した文献・論文のレジュメ作成を受講者で分担頂きます。これとは別に、授業のなかで事例の紹介（簡単なメモの提出）、課題レポートの報告（事前提出）が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2~3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが（授業毎に資料を配布します）、文献・論文（初回授業で指定します）を輪読します（分担してレジュメの作成、報告を頂きます）。輪読する文献は、原則としてご自身で準備頂きます。輪読する論文については、こちらで準備し、事前にコピー・PDF 等を配布します。

【参考書】

授業のなかで適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ディスカッションへの貢献等）、輪読のレジュメの作成・報告（レジュメの内容把握の的確さ、報告のわかりやすさ、質問への対応等）、事例紹介、課題レポートの執筆・報告（課題設定や仮説提示の的確さ、論旨展開における説得力等）で評価します。平常点 30 %、レジュメ 30 %、レポート 40 % を原則とします。

レポート未提出（提出期限を過ぎてからの提出を含む）の場合、評価点はゼロ（原則として D 評価）となりますので、ご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

概説の途中のディスカッションも好評でしたので継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。輪読する文献。

【その他の重要事項】

欠席や遅刻・早退の場合は事前にご連絡ください。報告担当の回は原則として必ず出席してください（どうしても出席できない場合はお早めにご相談ください）。

秋学期は当面オンラインでの実施となります。学習支援システムで詳細をご案内しますので、ご登録をお願いいたします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

人的資源管理論、労働政策

<研究テーマ>

働き方改革、非正社員のキャリア形成、女性や高齢者の活躍推進、幹部候補の人才培养など

<主要研究業績>

『営業職の人才培养』（中央経済社、2012 年）

『働き方改革のフロンティア』『日本労働研究雑誌』第 679 号（2017 年）

『女性活躍推進の変遷と課題』『日本労務学会誌』第 16 卷第 1 号（2015 年）

『人材育成における 3 つのジレンマ』『ニッセイ基礎研究所報』Vol.60（2016 年）

『第 2 章どうすれば時給が上がるのか』佐藤博樹・大木栄一編『人材サービス産業の新しい役割』（有斐閣、2014 年）

【Outline and objectives】

In this course, students will learn what is a job, views of occupation, and the social structure that is underlying of them by understanding from historical and international point of view. After that, students will review a present state. Besides, students will learn a background or present state of Ability for Job Development Support Policy and Matching Job with Employee Policy and think about problems and what the ideal state of them. In this course, students are required to submit reports and documents to introduce examples, and you will give a presentation, have a discussion and review reports.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

上西 充子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に行び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、受講生の研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

フィードバックは授業内でその都度、行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、指定する。

【参考書】

・小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

- ・木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994 年）
- ・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016 年）
- ・その他の参考書については、必要に応じて、随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述を展開する方法など——を評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的な探求の力を高められるよう、促していきたい。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

梅崎 修

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心で学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

木村 琢磨

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に行び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I**児美川 孝一郎****実務教員：****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習Iでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心にして得る。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Iでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心にして得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書くが、院生やテーマによっては変更がありうる。

院生の発表等へのフィードバックは、授業時にそのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討①	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を考えるように指導する。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討②	研究テーマを設定するための指導を行う。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討③	研究テーマに基づいて、研究計画を策定できるように指導する。
第5回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集できるように指導する。
第6回	先行研究の検討②	先行研究を読み込み、適切に整理できるように指導する。
第7回	先行研究の検討③	先行研究を整理したうえで、研究上の論点を発見できるように指導する。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討①	適切な研究方法を選択できるように指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討②	調査内容を決定できるように指導を行う。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討③	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導①	調査の実施について、概括的な枠組みを決めるように指導する。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導②	調査の方法について、具体的な設計を行なうように指導する。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導③	調査結果の分析方法について、一定の見通しが持てるように指導する。
第14回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

本授業の準備・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Iでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文の中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指定する。

【Outline and objectives】

Instruct how to write a master's thesis of career studies. Learn thesis-writing methods for academic purposes. Includes literature review for basic themes, construction of frameworks and hypotheses, and methodological planning.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

齋藤 嘉孝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心とし、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導が中心となる。修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。 質問項目という観点から検討する。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定する。

【参考書】

必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

坂爪 洋美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心で学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に、授業実施日は受講生と調整する。また、修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。授業計画の基本的な内容は以下の通りである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

久井 英輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエーションの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心とし展開する。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究対象とする社会現象の選定。 究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究問題意識の明確化。 究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究問題の「面白さ」と「重要性」。 究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。

第 10 回 研究方法の決定、調査内容等の検討（3）について。

第 11 回 調査内容の決定と調査の実施に関する検討する。（1）

第 12 回 調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）

第 13 回 調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）

第 14 回 研究の中間とりまとめ 発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うこととが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

佐藤 厚

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心で学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

佐藤 恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンライン授業となる場合もある。

オンライン授業となる場合、Zoom によるリアルタイム方式の授業とし、Zoom へのアクセス方法については、授業開始時刻までに、受講者にメールにて連絡する。

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が生徒の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がある。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下「授業計画」欄に基本的な内容を記す。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容・論文内容（50%）、平常点（50%）。

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

高野 良一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。自らの現場を、理論的な仮説に基づき実証研究することが目的である。演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、実証調査の企画を主に学ぶ。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な知識や理論、調査及び論文執筆のスキルを習得する。具体的に言えば、問題・課題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などである。演習 I では、問題・課題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、実証的な技法・スキルの獲得が主な目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導院生と話し合って、隔週 2 コマ連続として開講する。通例では、土曜日や平日の夜間を利用したゼミと個別指導を組み合わせて実施する。また、修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

なお、演習は原則対面でおこなうが、適宜、ZOOM も利用する。また、質疑や課題等へのフィードバックも、適宜おこないたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	修士論文の意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション
2	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定する指導を行う。PBL シートの記入を伴う。
3	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定する指導を行う。PBL シートの記入を伴う。
4	先行研究の収集とレビューの仕方（1）	研究テーマに関連する先行研究を収集する情報源や批判的なレビューの仕方を指導する。
5	先行研究の収集とレビューの仕方（2）	研究テーマに関連する先行研究を収集する情報源や批判的なレビューの仕方を指導する。
6	調査項目の決定と予備（第一次）調査に関する指導（1）	適切な項目と方法に基づき、実現可能な調査を設計する指導を行う。
7	調査項目の決定と予備（第一次）調査に関する指導（2）	適切な項目と方法に基づき、実現可能な調査を設計する指導を行う。
8	研究の経過報告（1）	途中経過の報告を受けて指導助言する
9	研究の経過報告（2）	途中経過の報告を受けて指導助言する
10	本調査の設計に関する指導（1）	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。
11	本調査の設計に関する指導（2）	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。
12	サンプルデータ分析の指導（1）	収集できたサンプルデータ解析の指導を行う。
13	サンプルデータ分析の指導（2）	収集できたサンプルデータ解析の指導を行う。
14	研究の中間総括	夏休みの研究・調査の課題を明確し、中間報告に向けた準備を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

特に、演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、自らが演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ整理しておくことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、テキストを指定する

【参考書】

参考書や資料は、必要に応じて、担当の教員が指定ないし配付する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

演習 I では、問題・課題意識の明快さ、先行研究を踏まえた理論や研究枠組み、調査などの実証的妥当性を評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The seminar's objective is to supervise a graduate student who write a master thesis. In the spring semester(Seminar I),the student will mainly learn to review the previous researches related with his/her thesis,to formulate a hypothesis, and to plan and do a field study..

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

武石 恵美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に行び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は、個別指導で実施する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要素である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I , you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

田澤 実

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に行び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによって変更がある。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため該当せず

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

田中 研之輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち、演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心して得る。(とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文執筆にむけて準備をすすめていく)

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心して得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

フィードバックは、修士論文の執筆段階に応じて、先行研究の整理、方法論の検討、事例分析の妥当性について、細かくアドバイスを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	先行研究の検討－理論	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の理論をより明らかにしていくための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討－方法	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討－対象	調査対象に関連する対象の調査を先行研究の整理から実施する。
第 6 回	調査内容の検討	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 7 回	調査内容の設計	実際にどのようにして調査を進めていくかの計画的なプランニングを行う インタビューやヒアリング項目を精査するために、プレ調査の実施方法を指導する
第 8 回	プレ調査の実施	プレ調査結果の検討を行う。結果に応じて、適宜、インタビュー項目等を調整する
第 9 回	プレ調査結果の検討	プレ調査結果を踏まえて、質的調査の具体的な記述法を指導する
第 10 回	プレ調査結果の記述	プレ調査結果を踏まえて、本調査の内容の決定を行う
第 11 回	本調査内容の決定	本調査を実施する上でのプライバシーと倫理面での指導を行う
第 12 回	本調査の実施に関する指導－倫理面	

第 13 回	本調査の実施に関する一 分析・記述面	本調査を実施する上での分析方法と記述方法を詳しく検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	研究の中間まとめとして、研究の方 法・分析・記述を総合的に検討・再検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

共通参考書

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods and academic writing as they require to the graduate degree of career studies. This practical academic sessions provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the master thesis.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ**筒井 美紀****実務教員：****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心して習得する。(とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文執筆にむけて準備をすすめていく)

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心して習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoom の活用など）や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 6 回	先行研究の検討（3）	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 7 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第 10 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導（1）	調査の実施について適宜指導を行う。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導（2）	調査の実施について適宜指導を行う。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導（3）	調査の実施について適宜指導を行う。
第 13 回	研究の中間とりまとめ（1）	中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 14 回	研究の中間とりまとめ（2）	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・革新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

松浦 民恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に行び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

授業計画については、研究テーマや方法論によって柔軟に変更するが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関連する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関連する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて紹介する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要素である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I , you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

廣川 進

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説の構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心で、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによって変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I

安田 節之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。修士論文執筆を目指した指導を行う。演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及びリサーチエクスプローラーの構成、調査の企画を学ぶ。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習は個別指導が中心となる。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第 3 回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 4 回	先行研究の検討②	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第 5 回	調査内容の決定	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。
第 6 回	調査内容や方法の検討	調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。調査の実施について適宜指導を行う。中間報告に向けた準備を、テーマ設定、先行研究レビュー、研究の枠組みという観点から行う。
第 7 回	研究の中間とりまとめ①	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 8 回	研究の中間とりまとめ②	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 9 回	研究の中間のとりまとめ③	中間報告に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第 10 回	調査研究データの分析①	収集したデータの分析、整理を行う。
第 11 回	調査研究データの分析②	収集したデータの分析、整理を行う。
第 12 回	データの解釈	データの解釈を深く検討する
第 13 回	研究の総合考察	総合考察の検討と総合的なまとめ
第 14 回	研究の結論の検討	総合考察と結論の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

Students will prepare for writing their master's theses in this graduate seminar by working closely with their faculty advisers. In Graduate Seminar I, students will first conduct literature review followed by forming their research frameworks and developing a series of research questions. Throughout these processes, they will acquire skills to conduct a graduate-level research study.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅰ

熊谷 智博

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち、演習Ⅰでは、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心で習得する。

【到達目標】
修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

そのうち演習Ⅰでは、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心で習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討①	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討②	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討③	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第5回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第6回	先行研究の検討②	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第7回	先行研究の検討③	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討①	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討②	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討③	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。 調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。

第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導①	調査の実施について適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導②	調査の実施について適宜指導を行う。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導③	調査の実施について適宜指導を行う。
第14回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要素である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅰでは、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会心理学、グループダイナミックス、紛争解決。

<研究テーマ>

集団間紛争の心理過程について研究しています。最近は集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。

<主要研究業績>

熊谷智博（2019）、第3章 集団間の紛争はどのように悪化するのか—キャンプ実験を例に 日本心理学会監修 大渕憲一編 紛争と和解を考える：集団の心理と行動 誠信書房 pp.46-72.

Tomohiro Kumagai (2017). Social Psychological Factors of Peace-Building: Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society (pp.101-108). GRM program, Doshisha University.

熊谷智博（2016）、第15章：集団間紛争とその解決および和解 大渕憲一監修 紛争・暴力・公正の心理学 北大路書房 pp.192-203.

熊谷智博（2014）、第9章：集団の中の個人、第10章：集団間関係。脇本竜太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著 基礎からまなぶ社会心理学 サイエンス社 pp.153-192.

熊谷智博（2013）。集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討 社会心理学研究, 29, 2. 86-93.

熊谷智博・大渕憲一 監修（2012）紛争と平和構築の社会心理学：集団間の葛藤とその解決 北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

【Outline and objectives】

In this course, I instruct how to use preceding studies, to make hypothesis, and to plan survey for a master thesis.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

上西 充子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

授業計画は、受講生の研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

フィードバックは授業内でその都度、行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第 3 回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第 4 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第 5 回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第 6 回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第 8 回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第 9 回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第 10 回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに即したかたちで結論が提示されているかの確認。
第 11 回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第 12 回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第 13 回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第 14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、指定する。

【参考書】

・小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

- ・木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994 年）
- ・岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016 年）
- その他の参考書については、必要に応じて、随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

みずからの言葉による論理構成ができるよう、支援していきたい。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

梅崎 修

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文の中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

木村 琢磨

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文の中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

児美川 孝一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書くが、院生やテーマによっては変更がありうる。

院生の発表等に対するフィードバックは、授業時にそのつど行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の報告	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、必要な指導を行う。
第3回	調査の継続遂行についての指導	調査を継続していくにあたり、必要な配慮、改善点などについて指導を行う。
第4回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導①	調査結果の分析方法について、関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第5回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導②	調査結果の分析方法について、第4回とは異なる関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第6回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導③	調査結果の解釈の方法について、関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第7回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導④	調査結果の解釈の方法について、第6回とは異なる関連分野の他の研究を事例として指導を行う。
第8回	調査結果の分析方法、解釈に関する指導⑤	調査結果の分析方法、解釈について、第4回～第7回で触れられなかった点を中心に総合的な指導を行う。
第9回	論文執筆の助言、指導①	論文の構成、論述方法について指導を行う。
第10回	論文執筆の助言、指導②	先行研究の整理、言及の方法について指導を行う。
第11回	論文執筆の助言、指導③	調査結果の分析法、考察の展開の仕方について指導を行う。
第12回	論文の最終チェック①	修士論文の構成を中心として、論文の最終チェックのための指導を行う。
第13回	論文の最終チェック②	調査結果と考察との関係が整合的であるかどうかを中心として、論文の最終チェックのための指導を行う。
第14回	論文の最終チェック③	修士論文の完成度を高めるための最終チェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

本授業の準備・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指定する。

【Outline and objectives】

Instruct how to write a master's thesis of career studies. Learn thesis-writing methods for academic purposes. Includes conducting surveys and interviews, analyses, and consideration on the basis of the course I.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

齋藤 嘉孝

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法一問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に行われる。

曜日・时限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が生年の意向も踏まえて曜日・时限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文の中間発表会振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

坂爪 洋美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に、授業実施日は受講生と調整する。また、修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。授業計画の基本的な内容は以下の通りである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第 3 回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第 4 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第 5 回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第 6 回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	論文執筆の助言・指導（1）	論文執筆の助言・指導を行う。
第 8 回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第 9 回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第 10 回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第 11 回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第 12 回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第 13 回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第 14 回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的に積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

久井 英輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に行われる。

曜日・時間は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が生徒の意向も踏まえて曜日・時間や開講形態・内容を決定する。

一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がある。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析に関する指導（2）析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。

- 第9回 論文執筆の助言・指導 各章のつながり、ストーリーラインの確認。
- 第10回 論文執筆の助言・指導 問いに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
- 第11回 論文のブラッシュアップ（1） 論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
- 第12回 論文のブラッシュアップ（2） 先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
- 第13回 論文のブラッシュアップ（3） データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
- 第14回 論文の最終チェック 修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会教育学

<研究テーマ>

近現代社会教育史、社会教育職員研究、社会教育行政研究

<主要研究業績>

『社会教育・生涯学習研究のすすめ—社会教育の研究を考える—（講座 転形期の社会教育 6）』学文社、2015年（共編著）

『近代日本の生活改善運動と〈中流〉の変容—社会教育の対象／主体への認識をめぐる歴史的考察—』学文社、2019年（単著）

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤 厚

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文の中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

佐藤 恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンライン授業となる場合もある。

オンライン授業となる場合、Zoomによるリアルタイム方式の授業とし、Zoomへのアクセス方法については、授業開始時刻までに、受講者にメールにて連絡する。

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が生徒の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がある。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下「授業計画」欄に基本的な内容を記す。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

報告内容・論文内容（50%）、平常点（50%）。

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

高野 良一

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識や理論と調査・研究スキル、つまり、問題・課題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめるスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は、個別指導を中心に行われる。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、隔週 2 コマ開講を基本とする。通常では、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施する。

なお、演習は原則対面であるが、ZOOM でも適宜を行う。また、質疑や課題とのフィードバックは、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
2	調査の実施状況の確認 (1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認する。
3	調査の実施状況の確認 (2)	進捗状況を再確認する。
4	調査結果の整理に関する指導 (1)	調査結果の取りまとめ方を議論する。
5	調査結果の整理に関する指導 (2)	調査結果の取りまとめ方に関する方向性を確定する。
6	調査結果の分析・解釈に関する指導 (1)	結果の分析・解釈の妥当性・論理性への議論する。
7	調査結果の分析・解釈に関する指導 (2)	結果の分析・解釈の修正について指導助言を行う。
8	論文執筆に関する助言・指導：内容構成・章立て (1)	論文の構成、章立ての構想について指摘をする。
9	論文執筆に関する助言・指導：内容構成・章立て (2)	構想の修正について指導助言をする。
10	論文執筆に関する助言・指導：先行研究レビュー (1)	先行研究レビューの妥当性、論文の意義づけ・位置づけについて原稿に即して指摘する。
11	論文執筆に関する助言・指導：先行研究レビュー (2)	原稿について指摘したことの修正に関する指導助言をする。
12	論文執筆に関する助言・指導：図表・引用等 (1)	説得力や明証性のある図表、適切で妥当性のある引用にする指摘を行う。
13	論文執筆に関する助言・指導：図表・引用等 (2)	教員の指摘に対する修正について指導助言を行う。
14	完成原稿の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定する。

【参考書】

適宜、文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The seminar's objective is to supervise a graduate student who write a master thesis. In the autumn semester(Seminar II),the student will be advised to finish writing a thesis.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

武石 恵美子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は、個別指導で実施する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

田澤 実

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に行われる。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによって変更がある。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認 (1)	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認 (2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導(1)	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導(2)	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導 (1)	論文執筆の助言・指導
第8回	論文執筆の助言・指導 (2)	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導 (3)	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導 (4)	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ (1)	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ (2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ (3)	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）
その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないため該当せず

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

田中 研之輔

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心として指導を行う。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文完成にむけて執筆と検討をすすめていく）

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法一問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な展開し、まとめの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認 (1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認 (2)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 4 回	調査の分析と執筆計画の確認	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (1)	調査結果の取りまとめについて、特に、データ抽出の指導・検討を行う
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (2)	調査結果の取りまとめについて、特に、先行研究とデータ抽出との関係性に関する指導・検討を行う
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導 (3)	調査結果の取りまとめについて、特に、データ抽出の分析方法と記述について指導・検討を行う
第 8 回	論文指導の助言・指導 (1)	修士論文の完成度を高めるための指導を、特に、研究の目的と方法の観点から行う。
第 9 回	論文指導の助言・指導 (2)	修士論文の完成度を高めるための指導を、各章ごとの内容の観点から行う。
第 10 回	論文指導の助言・指導 (3)	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第 11 回	論文の最終チェック (1)	研究の目的や研究方法の記述について詳細な検討を行う
第 12 回	論文の最終チェック (2)	先行研究の検討と本論文の意義について詳細な検討を行う
第 13 回	論文の最終チェック (3)	分析結果と記述内容、結果について詳細な検討を行う
第 14 回	研究報告の検討	書き上げた論文を学会等で報告する際の研究報告について指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This course introduces research methods and academic writing as they require to the graduate degree of career studies. This practical academic sessions provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the master thesis.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

筒井 美紀

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。

学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心で指導を行う。（とくに、質的調査：インタビュー法やエスノグラフィーを用いた論文完成にむけて執筆と検討をすすめていく）

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法一問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態（zoom の活用など）や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによって変更がある。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2 回	調査の実施状況の確認（1）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 3 回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 4 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（1）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 5 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（2）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 6 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（3）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 7 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（4）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 8 回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導（5）	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 9 回	論文執筆の助言、指導（1）	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 10 回	論文執筆の助言、指導（2）	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 11 回	論文執筆の助言、指導（3）	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第 12 回 論文執筆の助言、指導（4） 論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第 13 回 論文の最終チェック（1） 修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

第 14 回 論文の最終チェック（2） 修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書

小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000 年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する

【成績評価の方法と基準】

主体的に積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要素である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

This class is for the students of the second year of the master programme. They will write his/her master thesis with the instruction, the aim of which is to lead to the students to write a academically meaningful paper.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

松浦 民恵

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導を中心に展開する。曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

授業計画については、研究テーマや方法論によって柔軟に変更するが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて紹介する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

廣川 進

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に行われる。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによって変更がある。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章ごとの論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終点検。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

共通参考書：小池和男『聞きとりの作法』（東洋経済新報社、2000年）

その他の参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

安田 節之

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程 2 年次生を対象に、キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。修士論文執筆の完成を目的とした指導を行う。演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを学ぶ。演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめる方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の 7 限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文の中間報告会において報告が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間報告会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第 2, 3	調査の実施状況の確認	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第 4~8	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導	調査結果の取りまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第 9~11	論文執筆の助言、指導	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第 12,13	論文の最終チェック①	修士論文の完成度を高めるための指導を、各章ごとの内容の観点から行う。
第 14 回	論文の最終チェック②	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大学院生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

Students will complete their master's theses in Graduate Seminar II. In this seminar, particular attentions will be placed on conducting data collections and analyses. Students will then finalize their theses by integrating research questions and study findings in their discussions.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ

熊谷 智博

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。そのうち演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法などを習得する。

このうち演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開し、まとめの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。時間の設定は土曜日の7限となっているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用したゼミ、個別指導を組み合わせて実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻全員が参加する修士論文中間発表会において報告が求められる。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	調査の実施状況の確認①	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第3回	調査の実施状況の確認②	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第4回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導①	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第5回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導②	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第6回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導③	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導④	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第8回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導⑤	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第9回	論文執筆の助言、指導①	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第10回	論文執筆の助言、指導②	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第11回	論文執筆の助言、指導③	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第12回	論文の最終チェック①	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第13回	論文の最終チェック②	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第14回	論文の最終チェック③	修士論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の出席と報告が基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

そのうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

社会心理学、グループダイナミックス、紛争解決。

<研究テーマ>

集団間紛争の心理過程について研究しています。最近は集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。

<主要研究業績>

熊谷智博（2019）。第3章 集団間の紛争はどのように悪化するのか—キャンプ実験を例に 日本心理学会監修 大渕憲一編 紛争と和解を考える：集団の心理と行動 誠信書房 pp.46-72.

Tomohiro Kumagai (2017). Social Psychological Factors of Peace-Building Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society (pp.101-108). GRM program, Doshisha University.

熊谷智博(2016)。第15章：集団間紛争とその解決および和解 大渕憲一監修 紛争・暴力・公正の心理学 北大路書房 pp.192-203.

熊谷智博(2014)。第9章：集団の中の個人、第10章：集団間関係. 脇本竜太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著 基礎からまなぶ社会心理学 サイエンス社 pp.153-192.

熊谷智博(2013)。集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討 社会心理学研究, 29, 2, 86-93.

熊谷智博・大渕憲一監訳(2012) 紛争と平和構築の社会心理学:集団間の葛藤とその解決 北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

【Outline and objectives】

In this course, I will supervise how to analyze data and to write a master thesis.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習 I (代表シラバス)

木村 琢磨、梅崎 修

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習 I では、論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワークおよび仮説やリサーチクエスチョンの構成、調査の企画を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習 I では、問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の検討と調査の実施を中心に行び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の 7 限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の基本的な構成、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション。
第 2 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（1）	研究対象とする社会現象の選定。
第 3 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（2）	問題意識の明確化。
第 4 回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討（3）	問題の「面白さ」と「重要性」。
第 5 回	先行研究の検討（1）	研究テーマに関する先行研究の体系的収集。
第 6 回	先行研究の検討（2）	研究テーマに関する先行研究の読み込み。
第 7 回	先行研究の検討（3）	先行研究の検討を通じた、研究の論点の明確化。
第 8 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（1）	量的調査／質的調査の諸手法について。
第 9 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（2）	データ分析法について。
第 10 回	研究方法の決定、調査内容等の検討（3）	調査対象、調査時期、調査内容について。
第 11 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（1）	質問項目という観点から検討する。
第 12 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（2）	仮説やリサーチ・クエスチョンの構成という観点から検討する。
第 13 回	調査内容の決定と調査の実施に関する検討（3）	適切な調査手法の選定という観点から検討する。
第 14 回	研究の中間とりまとめ	発表会に向けた準備を、研究の枠組、仮説構成、調査の手法という観点から行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習 I では、先行研究を踏まえた研究の枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies I, you are expected to acquire skills to write your thesis including how to review previous studies, design its framework and hypotheses/research questions, and plan surveys, all of which serve as the bases of your thesis writing process.

OTR600M1

キャリアデザイン学演習Ⅱ（代表シラバス）**木村 琢磨、梅崎 修****実務教員：****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

キャリアデザイン学に関する修士論文執筆のための研究指導を受け、学術的に価値のある水準の高い修士論文完成を目指す。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、演習Ⅰを踏まえた調査の実施、データの分析・解釈、論理的な論述展開を中心に論文作成法を習得する。

【到達目標】

修士論文執筆に必要な一連の知識と技法——問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開する方法など——を獲得する。

キャリアデザイン学演習Ⅱでは、調査で得られたデータの分析と解釈の仕方、論理的な論述を展開し、ストーリーラインをまとめる方法を中心に学び、質の高い論文が作成できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個々の教員によって異なるが、個別指導を中心に展開する。

曜日・時限は、時間割上は土曜日の7限に設定されているが、修士論文指導教員の決定後に担当教員が院生の意向も踏まえて曜日・時限や開講形態・内容を決定する。一般的には、土曜日や平日の夜間を利用し、個別指導形式を中心とした演習を実施している。

修士論文の執筆過程で、専攻の全員が参加する修士論文構想発表会、修士論文中間発表会において報告が求められる。

各回の授業にて進捗状況に応じたフィードバックは担当教員から行い、構想発表、中間発表では担当教員および他の教員複数名からその場でフィードバックを行う。

本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、教員やテーマによっては変更がありうる。

授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習Ⅰ、中間発表会を踏まえ、修士論文執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	修士論文の中間発表会の振り返り	中間発表会で寄せられた各コメントに対する対応の仕方の検討。
第3回	調査の実施状況の確認（1）	データ収集・整理の進捗状況のチェック。
第4回	調査の実施状況の確認（2）	研究テーマに即した調査が適切に行われているかのチェック。
第5回	調査データの分析・解釈に関する指導（1）	調査結果のとりまとめ方を改めて検討する。
第6回	調査データの分析・解釈に関する指導（2）	研究テーマ・研究方法に即した分析と解釈に関する指導を行う。
第7回	論文執筆の助言・指導（1）	問題意識の明確さの確認。
第8回	論文執筆の助言・指導（2）	各章の論理整合性の確認。
第9回	論文執筆の助言・指導（3）	各章のつながり、ストーリーラインの確認。
第10回	論文執筆の助言・指導（4）	問い合わせに対応したかたちで結論が提示されているかの確認。
第11回	論文のブラッシュアップ（1）	論文全体の構成に留意したブラッシュアップ。
第12回	論文のブラッシュアップ（2）	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意したブラッシュアップ。
第13回	論文のブラッシュアップ（3）	データの分析・解釈の掘り下げ方に留意したブラッシュアップ。
第14回	論文の最終チェック	修士論文の完成度を高めるための最終検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、修士論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行なうことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めるポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。

【テキスト（教科書）】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【参考書】

研究テーマおよび調査研究実施上の必要性に応じて担当の教員が指定する。

【成績評価の方法と基準】

主体的で積極的な参加と報告内容、論文の内容を総合的に評価する。

修士論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、大學生の報告とディスカッションが基本要件である。

修士論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論述の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

このうち演習Ⅱでは、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などを評価基準として重視する。

【学生の意見等からの気づき】

院生の問題意識に合致した集団指導体制の推進およびそのための修士論文構想発表会、修士論文中間発表会での教員コメントの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて担当の教員が指定する。

【Outline and objectives】

You are to complete your academically valuable, high-level master's thesis regarding career studies by receiving research guidance for writing it.

In Seminar on Career Studies II, you are supposed to obtain skills to write your thesis including how to conduct surveys based on Seminar I, analyze and interpret data, and develop logical discussions.